所
有

BULLETIN

版

DE LA

權

SOCIÉTÉ PÉNITENTIAIRE DU JAPON

大日本監獄協會雜誌

第 四 拾 號

明治二十四年九月發兌

大日本監獄協會

會 告

一本會に送附する爲替金は東京集治監官舎石澤謹吾氏宛にて東京千住南組千住郵便局に振込込みの事

一會費の送附及び會計に關する往復文書は

東京集治監官舎にて庶務局長石澤謹吾宛

一會計に關せざる往復文書は

東京牛込區北町卅番地主幹字川盛三郎宛

右會員各位に廣告致し候事

明治廿三年三月廿五日本會所有
明治廿四年七月三十日印刷
明治廿四年七月卅一日出版

發行兼編輯者

東京牛込區神樂町貳丁目二十二番地

佐野

尙

印刷人

東京本所區外手町十一番地寄留

寺井宗平

平

發行所

東京牛込區神樂町貳丁目二十二番地

大日本監獄協會事務所

(逓信省認可)

大日本監獄協會規則

- 第一條 本會ハ大日本監獄協會ト稱ス
- 第二條 本會ノ目的ハ大日本帝國監獄事業及ヒ監獄關係事業ノ改進ヲ翼賛スルニ在リ
- 第三條 本會ノ事業ハ左ノ如シ
一 監獄事業ヲ獎勵スル事
二 不良少年感化事業ヲ獎勵スル事
三 出獄人保護事業ヲ獎勵スル事
四 貧民ノ救助及ヒ教育ニ關スル事業ヲ獎勵スル事
五 諮問及ヒ質問ニ答フル事
六 懸賞文ヲ募ル事
七 監獄ニ關スル翻譯並ニ著述ヲ爲ス事
八 監獄ニ關スル圖書ヲ出版スル事
九 本會ノ雜誌ヲ發刊スル事
十 監獄衛生ヲ獎勵スル事
十一 萬國監獄公會萬國監獄委員及ヒ各國監獄協會トノ通信ヲ往復其他ニ關スル事
- 第四條 本會ハ毎月常集會ヲ開キ會務ノ相談ト事業ノ相談ト學問上ノ研究ヲ講義ヲ討論 談話等トヲ舉行スヘシ
- 第五條 雜誌ハ毎月一回發刊シテ會員ニ頒ツ
- 第六條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス
一 推戴員
二 名譽會員
三 特別會員

維持會員

- 第五條 維持會員ハ本會ノ特ニ推薦スル方ナリトス
- 第六條 名譽會員ハ本會ノ特ニ推薦スルモノナリトス
- 第七條 特別會員ハ特ニ監獄事業又ハ監獄關係事業ニ功勞アルモノトス
- 第八條 維持會員ハ本會ニ關スル議事其ノ他一切ノ事務ヲ擔當スルモノトス
- 第九條 正員ハ總會及ヒ常集會ニ出席スルノ權利ヲ有シ本會雜誌購讀ノ義務アルモノトス
- 第十條 第八條 推戴員ハ皇族ニ請フテ其ノ許諾ヲ受ルモノトス
- 第十一條 名譽會員及ヒ特別會員ハ議員全体ノ發議ニ因リ本會ニ於テ推舉スルモノトス
- 第十二條 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長
副會長
庶務局長
調查局長
主任
庶務委員
調查委員
特別調查委員
- 第十三條 特別調查委員ハ其ノ任期ヲ一年トシ毎年ノ總會ニ於テ改選ス但シ再選セラルルヲ得
- 第十四條 役員ハ總テ名譽職トス
- 第十五條 總會ハ毎年四月二ニ之ヲ開ク
- 第十六條 維持會員ハ毎月會費金五拾錢ヲ納ムヘシ
- 第十七條 選舉ハ總テ維持會員之ヲ行フ
- 第十八條 明治廿三年七月十二日改正

第四拾號目次

- 定期總會廣告.....一
- 加入人名.....一
- 官報.....二
- 六 件 報.....二
- 監獄論議..... 正員畑貝太郎述一四
- 雜論..... 三二
- 希望一束..... 三三
- 問答..... 三六
- 監獄則施行細則問答..... 三〇
- 新法令問答..... 三六
- 譯 譯..... 三六
- 露國萬國監獄會議決議..... 三六
- 獨國監獄法..... 正員畑貝太郎譯四一
- 特別會員寄書..... 四四
- 小原重哉君ノ寄書..... 四四
- 通 信..... 四四
- 看手教育..... 四八
- 精勤證書..... 五〇
- 本會記事..... 五〇
- 九 件..... 五〇
- 附 錄..... 五〇
- 監獄則施行細則問答..... 三〇
- 新法令問答..... 三六
- 譯 譯..... 三六
- 露國萬國監獄會議決議..... 三六
- 獨國監獄法..... 正員畑貝太郎譯四一
- 特別會員寄書..... 四四
- 小原重哉君ノ寄書..... 四四
- 通 信..... 四四
- 看手教育..... 四八
- 精勤證書..... 五〇
- 本會記事..... 五〇
- 九 件..... 五〇
- 附 錄..... 五〇

●定期總會

來る九月二十七日(日曜日)午前正十時より

一東京市淺草鷗遊館

に於て第四回定期總會を開く

午後正一時より左の諸氏の獄事演説あり

佛國法律大博士

ボアソナード氏

獄務顧問

ゼーバツハ氏

法學博士大學教授

梅謙次郎氏

元元老院議官

小原重哉氏

米國法律學士

三好太郎氏

神奈川縣典獄

小泉保直氏

右會員各位に廣告致し候事

明治廿四年九月十日

大日本監獄協會

●有志懇親會

来る九月二十七日(日曜日)午後正五時より

東京市淺草鷗遊館

に於て有志懇親會を相催ふし候間御同意の諸君は遅くも

九月二十四日までに庶務委員佐野尙宛御報知ありたし

一會費一人に付き金壹圓三拾錢 當日御持參の事

一會員は知友を誘引するを得へし但し會費は前全斷

一衣服は羽織袴又は洋服

右會員各位に廣告致し候事

明治廿四年九月十日

大日本監獄協會

大日本監獄協會雜誌第四拾號

明治二十四年八月

○本年七月以來に正員として入會せられたる諸君は左の如し

東京府 畑 真太郎君(法學士) 三好 太郎君(米國法律學士)

神奈川縣 金子 銓太郎君(法學士) 重野 安居君 小田島忠次郎君 曾根 久君 中野喜三郎君

藤井縣 藤井 濱次郎君(狀師) 佐枝 政巳君 金田 佐一君 酒井 是助君 永田 渙君

北海道的 工藤 小太郎君 神 可 正君 高杉 林太郎君 管波 佐太郎君

兵庫縣 松本 豊次郎君 木戸 政一君 佐藤 爲雄君 田中房太郎君

福岡縣 三ヶ尻 忠 吾君 千葉 知 養君 田澤 石五郎君 山田 茂次郎君 木村 久太郎君

愛知縣 新 沼 縣 佐藤 猪三郎君 田澤 石五郎君 山田 茂次郎君 木村 久太郎君

山崎 角次君 佐々木 巳三郎君 吉澤 清藏君 吉田 唯彌君

林 宣 透君 雲村 初太郎君 本木 又藏君

山形縣 藤野 直道君 長尾 富彦君 登坂 忠精君

官報

自明治廿四年七月廿一日
至明治廿四年八月二十日

勅令

朕内務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十四年七月二十四日
勅令第八十八號(摘要)

内務省官制

第一條 内務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、氣象、社寺、出版、版權、戶籍、賑
恤救済及鐵道ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會鐵道廳長官警視總監北海道廳長官及府縣知事ヲ監
督ス

第三條 參事官書記官ハ通則ニ掲クル職務ノ外監獄巡閱ノ事ヲ掌ル
第四條 内務省ニ左ノ六局ヲ置ク
縣治局 警保局 土木局 衛生局 社寺局 庶務局

第五條 縣治局長、警保局長及土木局長ハ勅任トシ衛生局長、社寺局長、庶務局長ハ奏任トス
第七條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 行政警察ニ關スル事項 二 高等警察ニ關スル事項 三 監獄ニ關スル事項 四 假出獄及監視假
免ニ關スル事項

朕集治監假留監官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十四年七月二十四日
勅令第八十七號
集治監假留監官制中左ノ通改ム

第五條中「一週年末ニ」ノ五字ヲ削除ス

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕北海道集治監官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十四年七月二十四日
勅令第八十八號

北海道集治監官制

第一條 北海道集治監ニ左ノ職員ヲ置ク
典獄 分監長 書記 看守長 監獄醫

第二條 典獄一人奏任トス北海道廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス
第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ監督シ判任官以上ノ進退ハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行
ス

第四條 典獄ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官以下俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
第五條 典獄ハ北海道集治監豫算定額内ニ於テ判任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得
其判任官ニ係ルモノハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第六條 典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官以上ニ係ルモノハ北海道廳長
官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第七條 分監長三人奏任トス各分監ノ長トナリ典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理ス
本監及分監ノ廢設並其位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條 典獄事故アルトキハ上席分監長北海道廳長官ノ命ヲ承ケ其事務ヲ代理ス
第九條 書記ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 看守長ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ

指揮監督ス
第十一條 監獄醫ハ判任トス本監及分監ニ分属シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第十二條 書記ハ三十一人看守長ハ六十一人監獄醫ハ八人ヲ以テ定員トス

第十三條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條 事務ノ分課並處務ノ規程ハ北海道廳長官之ヲ定ム
第十五條 監獄職員ノ外教誨師六人以下ヲ置ク判任待遇トス

附則

第十六條 本令ハ明治廿四年八月十六日ヨリ施行ス

○ 朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年七月二十四日

勅令第百一十一號(摘要)

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 書記官 警部長 財務長 參事官 技師 典獄 屬 技手

警部 監獄書記 看守長 監獄醫

第三條 書記官二人警部長一人財務長一人參事官二人典獄一人奏任トス

第四條 屬警部監獄書記看守長監獄醫ハ判任トス郡區書記ヲ通シテ四百十五人ヲ以テ定員トス

前項各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第七條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督シ並北海道集治監ヲ管理ス

第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ三部一署ヲ置ク

内務部

一 學務衛生社寺ニ關スル事項 二 兵事戶籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項 三 農工商務ニ關スル事項 四 地理山林ニ關スル事項 五 水陸運輸ニ關スル事項 六 漁獵ニ關スル事項 七

河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項 八 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項 九 他部ノ主

掌ニ属セサル事項

警察部

一 高等警察及行政警察ニ關スル事項

財務部 一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項 二 豫算決算ニ關スル事項 三 租稅ノ賦課徵收ニ關スル

事項

監獄署

一 道廳監獄ニ關スル事項

第二十條 書記官ハ内務部長、警部長、警察部長、財務部長、典獄ハ監獄署長ト爲リ各長官

ノ指揮ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十七條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

典獄事故アルトキハ上席書記長官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ代理ス

第二十八條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第二十九條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第三十條 道廳職員ノ外教誨師ヲ置ク判任ノ待遇トス其定員ハ長官之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク

第三十一條 巡查及看守ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條 監獄支署若干ヲ置キ書記ヲ以テ其長ニ充ツ

○ 朕北海道集治監分監長及北海道廳典獄特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年七月二十四日
勅令第百十三號

第一條 北海道集治監分監長及北海道廳典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ現ニ判任官六級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得
第二條 前條ニ依リ文官高等試験委員ノ銜ヲ經テ任用シタル北海道集治監分監長及北海道廳典獄ハ高等試験ヲ經ルニ非サレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス
附則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ集治監假留監高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

明治二十四年七月二十四日

勅令第百十五號

集治監假留監高等官年俸左ノ通定ス

東京集治監典獄 千四百圓 三池集治監典獄 千四百圓 宮城集治監典獄 千圓
兵庫假留監典獄 千圓 北海道集治監典獄 千八百圓 北海道集治監分監長 八百圓

附則 本令ハ明治廿四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ集治監假留監看守人員及俸給ニ關スル條項中追加ノ件ヲ裁可ス

明治二十四年七月二十四日

勅令第百十六號

明治二十三年勅令第二百二十八號集治監假留監看守人員及俸給ノ件第四ニ左ノ一項ヲ追加ス
北海道集治監ニ限リ勤績滿五年以上ニシテ勤勞拔群ナルモノニハ現俸四分ノ一以內ノ加俸ヲ給ス

ルコトヲ得

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ警視廳高等官俸給令ノ改正ヲ裁可ス

明治二十四年七月二十四日

勅令第百十八號

警視廳高等官俸給令

第一條 警視廳高等官ノ年俸左ノ如シ
警視總監 四千圓、警視 巡查本部長ニ補スルモノ 二千二百圓、警視 巡查本部副長ニ補スルモノ 千二百圓、警視 警務局長ニ補スルモノ 千五百圓、警視 官房第一部長ニ補スルモノ 千八百圓、警視 同第二部長ニ補スルモノ 千二百圓、警視 同第三部長ニ補スルモノ 千二百圓、警視 參事ニ補スルモノ 千圓、警視 巡視ニ補スルモノ 千二百圓、警視 警察署長ニ補スルモノ 九百圓、八百圓、七百圓、消防司令長 千五百圓、典獄 千圓、警察醫長 千圓、
第二條 警察署長ニ補スル警視ノ俸給區別ハ内務大臣其警察署ニ就テ之ヲ指定スヘシ
附則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ北海道高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

明治二十四年七月二十四日

勅令第百十九號(摘要)

第一條 北海道廳高等官ノ年俸左ノ如シ

長官 四千圓、書記官(上級二百圓、下級二千圓)、警部長 千八百圓、財務長 千八百圓、參事官 千圓、典獄 八百圓、郡區長 六百圓、

朕茲ニ地方高等官俸給令ヲ裁可ス
明治二十四年七月二十四日
勅令第二百二十號(摘要)

地方高等官俸給令

第一條 府縣知事書記官警部長收稅長及典獄ノ年俸左ノ如シ
東京府知事 四千圓
京都府知事 大坂府知事 神奈川縣知事 兵庫縣知事 長崎縣知事 新潟縣知事 愛知縣知事 宮城縣知事 廣島縣知事 熊本縣知事 三千五百圓
其他ノ縣知事 三千圓

書記官	二千圓	其他ノ諸縣	
警部長	千四百圓		
收稅長	千四百圓		
典獄	八百圓		
		三府及神奈川兵庫長崎新潟 愛知宮城廣島熊本ノ八縣	其他ノ諸縣

第二條 東京府書記官ハ特ニ年俸二千二百圓ヲ給スルコトヲ得
大坂府警部長ハ特ニ年俸千八百圓ヲ給スルコトヲ得

大坂府典獄ハ特ニ年俸千圓ヲ給スルコトヲ得

朕巡查看守待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十四年八月十日
敕令第七十號

巡查看守ハ列任官ヲ以テ待遇ス

●省令

內務省令第十一號

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名法號族籍年齡生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス 其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス 異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得シテ刑死者ノ爲メ公然祭禮ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限リニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫真其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス 其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ搜查起訴勾留服刑中ノ者若クハ搜查起訴勾留服刑中ニ死去シタルモノ及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス
明治二十四年七月二十七日

內務大臣子爵品川彌二郎

官報 內務省告示第三十五號 訓令

內務省令第十五號
明治十九年六月當省令第十一號警察官吏其他內國旅費概則中左ノ通改正シ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第六條 削除 第七條第四項中「四等」ヲ三等「六等」ヲ四等ト改ム
內務大臣子爵品川彌二郎

甲 號 表

汽車賃一哩	汽船賃一海里	馬車賃一里	日當
每二	每二	每二	每二
金三錢	金四錢	金七錢	金五十錢

乙 號 表

汽車賃一哩	汽船賃一海里	陸路雜費一里	日當
每二	每二	每二	每二
金二錢	金三錢	金四錢	金三十錢

●內務省告示第三十五號
北海道集治監官制第七條第二項ニ據リ本監ヲ權戶ニ置キ分監ヲ空知釧路網走ニ設置ス

明治二十四年七月三十日

內務大臣子爵品川彌二郎

●訓令

內務省訓令第十六號

警視廳 北海道廳 府縣 集治監 假留監

監獄醫及教誨師ニシテ判任待遇ヲ受クル者ノ旅費ハ左表ノ金額ヲ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ依リ支給スヘシ但地方ノ情況ニヨリ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

內務大臣子爵品川彌二郎

旅 費 額	
汽車賃 每二哩	汽船賃 每二海里
馬車賃 每二里	日當 每二日
金三錢	金四錢
金八錢	金六十錢

內務省訓令第十九號

府縣 集治監 假留監

看守長及看守禮式ハ本年當省訓令第十五號警察禮式ニ據ラシムヘシ
明治廿四年八月十七日

●辭令

任北海道廳典獄

青森縣典獄勳七等 石川慶吾

任北海道集治監典獄

北海道廳典獄正七位勳六等 大井上輝前

任北海道集治監分監長

陸軍歩兵大尉從六位勳四等 木下勝全

非職ヲ命ス

北海道廳典獄 寺見機一

非職ヲ命ス

北海道廳典獄 寺見機一

軍法會議並監獄巡視トシテ仙臺及札幌へ出張ヲ命ス

岩手縣典獄 本多義行

依願免本官

愛知縣典獄 村井高正

本年二月二日夜愛知縣監獄署へ竊盜忍入拘禁因愛知縣平民水野兼松外十八人ノ領置品百一點ヲ竊取セラレタル段職務上不都合ニ付罰俸月額十分ノ一ヲ科ス

●雜事

曩ニ上京シタル北海道廳典獄寺見機一ハ七月二十五日出發歸任、三池集治監外三縣監獄ヲ巡閱シタル內務省參事官荒川邦藏ハ七月三十日歸京

監獄會議 島根縣監獄署ニ於テハ七月十八日ヨリ各支署長ヲ召集シ職務上重要ノ件ヲ議決シ同二十三日閉會セリ

○青森縣ニ於テハ各監獄主席員ヲ監獄署ニ召集シ七月十九日ヨリ職務協議會ヲ開キ典獄ヨリ職務要領ヲ訓示シ其他獄事ノ重要ノ事項ヲ議シ同二十一日閉會セリ

○長崎縣ニ於テハ七月十一日ヨリ管下各監獄支署長ヲ召集シ獄事會ヲ開キ職務取扱ニ關スル要項ヲ議シ同十七日閉會セリ

○廣嶮縣監獄署ニ於テハ尾道三次兩監獄支署長ヲ召集シ七月二十五日ヨリ職務改良ニ係ル

一 監獄ニ關スル事項
假出獄及監視假免ニ關スル事項

講義

○監獄論講義

第一回

正員

法學士

畑良太郎述 東京

獨國ドクトル、フランツ、フオレ、ホルツェレドルフ、及ドクトル、オイゲン、フォン、ヤーゲマン、両氏ノ合著ニ係ル監獄論ハ議論正大辨說周到監獄ニ關スル條項ヲ總括網羅シタル近世著名ノ一大著述ナリ余ハ今日ヨリ専ラ該書ニ據リ今日ニ適切且必要ナル部分ヲ撰ミ之ヲ畧述セントス
本日ハ先ツ犯罪ノ原因ト稱スル問題ニ就キ說述セシ然レモ本論ニ入ルニ先タ一言ノ茲ニ陳フ可キ者アリ讀者之フ之ヲ諒セラレソフ

凡ソ事ヲ論シ理ヲ議スル必ス先ツ確定不拔ノ根底アルヲ要ス苟モ根底ニシテ浮泛渺茫風ノ如ク雲ノ如クナラシメハ推理逐條何等ノ巧妙ヲ極ムト雖モ遂ニ是無用ノ空論タルヲ免レヌ夫ノ人ハ萬物ノ靈長ナリト謂ヒ人ハ是非善惡ヲ識別スルノ能力ヲ有スル者ナリト謂ヒ人ノ性ハ善ナリト謂ヒ又惡ナリト謂ヒ或ハ善惡混同スト謂ヒ又ハ絶對的ニ正理ナルモノ、在ルアリテ人ノ理想ニ由リ之ヲ知ルヲ得ヘシト謂フカ如キニ至テハ皆是言ヲ先天ニ託スルモノニシテ即チ所謂確定不拔ノ根底ナキ者ニ外ナラス未開不識ノ昔時ニ於テハ間々此空論ニ服スル者ナキニ非サルモ一髮二十世紀ニ達

スル開明ノ今日ニ在テハ己ニ毫モ其價值ナキモノトス見ヨ夫ノ理學ニ關スル諸科ハ近世實ニ長足ノ進歩ヲ爲セルニ非スヤ而シテ其能ク此ノ如クナル所以ノ者ハ偏ヘニ確定ノ事實ニ據テ真理ヲ講明シ已往ノ實驗ニ徵シテ原則ヲ探究セルノ致ス所ナリ社會ニ關スル學科豈亦之レト其理ヲニセシヤ人事複雜素ヨリ窮リナシト雖モ其間必ス一定不動ノ原則ノ在ルアリ因果ノ關係決シテ物理ノ定則ヲ離ル、者ニ非ス苟モ推究其宜シキニ適シ研磨其道ニ合シ究理ニ馳セス空論ニ流レシハ其進歩ノ度豈遽ニ理學ノ下ニ出テシヤ是レ余カ一家ノ私言ニ非ラス實ニ歐洲碩學ノ論定セル所ナリ余カ逐次述ヘントスル犯罪ノ原因モ亦歐洲碩學ノ前陳ノ主義ニ據リテカチ諸般ノ學術ニ藉リ事實ニ基キ實驗ニ徵シ之ヲ講明シタルモノニシテ人類社會學統計學ハ實ニ此原因ヲ探究スルノ三大要具ナリトス

犯罪ノ原因

第一章 總論

凡ソ犯罪ノ原因其種類極メテ多ク其數固ヨリ萬ヲ以テ數フ可シト雖モ合類併種以テ之ヲ大別スルトキハ別テ左ノ三個トナスヲ得ヘシ曰ク

- 人類學上ノ原因又ハ個人的原因
- 自然ノ原因
- 社會上ノ原因

是ナリ右各種ノ原因ハ各自特別ナル性質ヲ帶有スルヲ以テ進ンテ犯罪トナルニ至テモ亦必ス一定固
有ノ効果ヲ生ス

人類學上ノ原因トハ何ソヤ他ナシ人類學上ヨリ觀察シタル各人各個ニ存スル犯罪ノ原因即チ是ナリ
故ニ或ハ之ヲ個人的ノ原因トモ稱ス抑モ此學派ノ鼻祖ハ近時有名ナル伊國ノ大家ロンブロー氏ニシ
テ氏ハ生理上ヨリ直接ニ犯罪人ノ何者タルヲ研究シ尋常人ト比較對照シテ以テ其異同ヲ辨シ又各
種ノ犯罪人ハ如何ナル特性ヲ有シ甲種犯罪人ト乙種犯罪人トハ如何ナル異同アルヤヲ備細ニ研究シ
之ニ因テ得タル結果ヲ蒐集彙纂シ刑事人類學ト名クル一派ノ學問ヲ創定シタリ氏ノ說ニ據レハ犯罪
人ハ一種異常ナル身体殊ニ腦髓ヲ有スルモノニシテ刑罰ノ効驗更ニナク隨テ刑法ハ無用ノ長物ニ屬
シ監獄ハ徒ラニ巨萬ノ國費ヲ擲チ犯罪術ヲ練習セシムルノ學校タルニ外ナラズト氏カ刑事人類學ナ
ル者ヲ創定シ犯罪ノ原因ヲ講明スルニ一大便益ヲ與ヘタルハ爭フ可カラサルノ事實ナリト雖モ然レ
死其論スル所此ノ如ク極端ニ走ルヲ以テ之ヲ非難スルノ學者亦極メテ多シ抑モ人類學上ヨリ觀察ヲ
下セハ人ハ其性質頗フル相同フシテ零ホ一定セルモノ、如シ今一ノ國民ニ就テ之ヲ見ルモ老幼男女
ノ差賢不肖及ヒ職業等ノ別アリト雖モ犯罪ニ及ホス影響ニ至テハ其差異決シテ氏ノ謂カ如ク甚シキ
者ニ非ス次章各論ヲ見ハ其然ル所以自カラ瞭然タル可シ

自然ノ原因モ亦犯罪上ニ較著ナル影響ヲ及ホス者ニ非ス何チカ自然ノ原因ト謂フヤ他ナシ外界自然
ノ現象カ人ニ及ホス影響ヨリ生スル原因即チ是ナリ而シテ此原因中犯罪ニ影響ヲ及ホス者アリ又及

ホサマル者マリ氣候風土地勢ノ差異等ノ如キハ其影響ヲ及ホサハルモノニシテ四時季節ノ變遷ノ如
キハ其影響ヲ及ホス者ナリ即チ年々歳々季節ニ因リテ犯罪ノ種類及其増減ヲ異ニスルノ傾向アルモ
ノトス

社會上ノ原因ハ上記ノ二原因ニ比スレハ犯罪ニ及ホス影響大ニ其趣キヲ異ニシ其範圍モ亦極メテ廣
ク人ノ社會ニ於ケル社會上ノ關係皆此原因中ニ包含セリ是ヲ以テ犯罪ニ及ホス影響ニ至テモ其種
類極メテ夥多ナリトス但シ家族上ノ地位及ヒ人種等ノ區別ハ犯罪ニ及ホス影響實ニ輕々微々タルニ
過キス間々異別ノ現象ヲ呈スルコトナキニ非サルモ永年月ヲ期シテ之カ比較ヲ試ムレハ殆ト同一轍ニ
歸ス之ニ反シテ其他一切ノ社會上ノ要件ハ大ニ犯罪ニ諸種ノ影響ヲ及ホス者トス譬ヘハ人口ノ増殖
社會組織ノ變化政治上ノ異動及ヒ革命歲ノ豐凶等即チ是レナリ抑モ社會ハ一ノ活動物ナルヲ以テ時
々俄然其情態ヲ變スルノ事件生スルコトナキニ非サルモ多クハ繼續ノ事件ニシテ其効果及ヒ効力モ亦
幾多ノ歲月ヲ經過スルニ非スハ之ヲ認識スル能ハサルモノナリ要スルニ社會上ノ原因ニハ急激ノ
効果ヲ生スルモノト緩漫ナル効果ヲ生スルモノトノ二アリ例ヘハ戰爭ノ如キハ急激ノ効果ヲ生スル
モノニシテ犯罪ノ情況ニ大變動ヲ及ホシ忽チニシテ起リ忽チニシテ止ム之ニ反シテ教育ノ如キハ其
効果短日月ヲ期シテ見ルヲ得ヘカフサルモノニシテ隨テ犯罪ニ及ホス影響ニ至テモ永年月ノ後ニ至
テ始メテ發見スルヲ得ルモノナリトス

世ニ宿因論者ナルモノアリ人世百般ノ事ヲ舉ゲテ一ニ之ヲ宿因ノ致ス所トナシ上記吾人ノ說ノ正反

對ニ立ツト雖モ吾人ヨリ之ヲ見ルキハ宿因論者コソ却テ偏見ヲ免レサル者ト謂ハサル可カラス吾人若シ宿因論者ニ向ツテ個々犯罪原因ノ性質ヲ列舉シ併セテ此原因ニ通スル效果ヲ對照シテ之ヲ示サハ宿因論者モ亦當ニ答フルニ辞ナカル可シ

以上犯罪ノ原因ヲ概論セリ以下進ンテ各種ノ原因ニ就キ備細ニ之ヲ論究セントス

第二章 人類學上ノ原因即チ個人的原因

(甲) 男女ノ別

男子ハ女子ニ比スレハ犯罪ノ所爲アル者極メテ多ク殆ト五倍以上ニ上ルニ至ル抑モ人類學上此現象ヲ呈スル所以ノ者ハ總テ女子タルモノハ生活ノ方法及ヒ職業ノ性質男子ト大ニ其趣キヲ異ニシ從テ犯罪ヲ行フ可キ機會ニ乏シトノ社會上ノ原因ニ歸着スルカ如シ然レモ深ク考察ヲ下セハ女子ニ犯罪ノ少ナキ原因ヲ以テ單ニ前述ノ原因ニ歸スルヲ得サル可シ何トナレハ事實生活ノ方法及ヒ職業ノ性質ニ於テ男子ト殆ト其差異ナキ地方即チ英國ノ如キ工業ノ發達シタル國ニ於ケルモ尙且女子ノ犯罪數ニ幾分ノ多キヲ加フルニ止マリ稍々男子ノ犯罪數ニ接近スト雖モ彼ノ此ヲ超過スルカ如キコトハ決シテ之レ有ラサレハナリ

社會上ノ原因ハ其抱合スル處ノ性ノ男女如何ニ因テ異別ノ效果ヲ生スル者ナルヲ以テ犯罪ノ有様ハ男女ニ因テ自カラ其差異アルモノトス普國ニ於テスタルケー氏ノ觀察シタル時代ニ於テハ女子ノ犯罪數割合尠少ナカリシト云フ然レモ此一般善良ナル現象ニ對シテ其タ不良ナル現象アリ即チ男子ニ

比シテ一層重キ犯罪人トナルヲ換言セハ其所爲殘虐酷薄ヲ極ムルコトアリ然レモ其實殘虐酷薄ヲ極ムルニ非スシテ皮相上唯此ノ如キノ觀アルノミ即チ社會一般ハ女子ノ非行ヲ憎惡スルコト殊ニ甚シク爲メニ女子ハ社會ノ擯斥ヲ受ケ途ニ殘忍酷薄ノ稱ヲ蒙ルニ至ル故ニ犯罪上女子ノ地位如何ヲ確實ニ知得セント欲セハ諸種ノ犯罪中如何ナル犯罪ニシテ始メテ女子ニ特別ナルヤヲ知ラサル可カラス夫レ女子ノ性質タル害惡ニ遠サカリ且ツ社會ニ於ケル交際ノ範圍極メテ狹隘ニシテ男子ニ比スレハ小兒ニ接近スルノ場合頗ル多シ是ヲ以テ殺兒棄兒墮胎等ノ如キ小兒ニ對スル諸犯罪ハ女子却テ男子ヨリ多分ヲ占ムルカ若シ然ラサルモ之ヨリ小數ナルコトナシ人ニ對スル苛酷ノ犯罪並ニ一般強暴ノ犯罪ニ關シテ女子ハ無論男子ニ數歩ヲ讓レリ而シテ風俗ニ關スル犯罪ニ至テハ一層男子ノ占ムル所ニシテ女子ニ在テハ其數極メテ尠シ又女子ノ人ニ對スル犯罪ハ其輒ク行ヒ易ク且ツ陰密ナル者或ハ親戚及ヒ夫ニ對スル諸種ノ犯罪及ヒ毒殺等殊ニ多シ是其交際ノ範圍狹隘ナルヲ致ス所ナリ而シテ是等諸種ノ犯罪ニ就テハ男子ト其數ヲ均フス激怒ニ因ルノ犯罪營ヘハ放火讒謗等ハ女子却テ男子ヨリ多シ財產ニ關スル犯罪ハ其輒ク行ヒ易キ者營ヘハ竊盜詐欺財產贓匿罪等多シ

今日ニ至ル迄歐洲學者カ各種ノ人民ヲ刑事骨相學上ヨリ觀察シタルコト屢ナリト雖モ各民履各其有様ヲ異ニセリ殊ニ苛酷ノ犯罪ニ至テハ全ク何等ノ標準ヲモ得ル能ハサリシヲ以テ隨テ各種民族内ニ於テ女子ノ犯罪ニ參與スル數モ亦大ニ多寡ノ差別アリ譬ヘハ埃國ニ就テ之ヲ觀ルニ同國南部諸州ニ於ケル苛酷ノ犯罪ハ北部諸州ヨリ多シト雖モ女子ノ犯罪數ニ至テハ其數却テ北部ヨリ少シ之ニ反シテ

北部諸州ニ於テハ奇酷ノ犯罪ハ割合ニ少シト雖モ女子ノ此種ノ犯罪ヲ爲スモノ多キハ即チ其好適例ナリ

以上男女ニ關スル人類學上ノ説ヲ概論セリ抑モ男女ノ別ハ又年齢ト相伴フテ犯罪上ニ一定ノ効果ヲ生セシムルモノナリ果シテ然ラハ年齢ノ犯罪ニ及ホス影響如何ヲ茲ニ論究スルハ決シテ無用ノ事ニ非サル可シト信ス乞フ左ニ之ヲ説述セシ

(乙) 年齢

吾人若シ試ニ犯罪表ヲ探テ一覽セハ人ノ年齢ハ當ニ犯罪ノ行爲全般ニ關シテ一定ノ傾向ヲ有スルノミナラス所犯ノ罪質ニ至テモ亦必ス其少長如何ニ因テ種類ヲ異ニスルヲ知ルヘシ之ニ由テ之ヲ觀レハ年齢ハ實ニ犯罪上ニ一種特異ノ現象ヲ呈スル者ト謂フ可シ夫、クエテレト比ノ年齢ニ關スル犯罪ノ傾向及ヒ其各階級間ニ存スル特別ノ性質ニ就テ論述シタルハ何人ト雖モ已ニ知了セル所ナラン而シテ此有名ナル論述ノ各項ニ就テハ往々反對ヲ試ムル者ナキニ非サルモ要スルニ其說ノ正確ニシテ争フ可カラサルハ統計ニ徴シテ自カラ明ラカナリ

二十歳乃至三十歳ノ年紀ニ於テハ犯罪ノ所爲アル者頗ル多シ就中二十五歳以前ニ在テ殊ニ甚シトス三十一歳以上三十五歳ニ至ル迄ハ零前者ニ等シク三十六歳以上四十歳ニ至ル迄ハ稍其趣キヲ異ニスト雖モ然レモ其性質頗ル相類似セリ而シテ四十歳ヲ超ユルニ至テハ犯罪ノ數著シク減少ス女子ノ犯罪數ハ二十歳以下ノ年紀ニ於テモ決シテ僅少ナラサル者トス蓋シ女子ヲ以テ男子ニ比スレハ其

成育甚ク速カナルヲ以テナリ而シテ又三十歳以上六十歳以下ノ高齢ニ於テハ男子ト均シク其犯罪數大ニ増加スルモノトス

幼年及ヒ中年ニ於テハ竊盜(年齢ニテ竊盜ノ種類ニ差別アリ而シテ構内竊盜中異類ノ者ハ最幼年者ノ性質ナリ)ノミナラス併セテ暴行ニ係ル犯罪及ヒ強姦等殊ニ多シ蓋シ壯者ハ血氣熾ニシテ恃勇ノ念ニ富ミ且人慾極メテ強盛ナレハナリ例ヘハ殺兒ノ如キハ壯年女子ニ於テ屢々見ル所ナリ男子ノ晚年ニ於ケル犯罪ハ主モニ陰險且複雑ノ行爲多シ譬ヘハ貪婪ニ基因スル犯行即チ詐欺及ヒ虛偽ノ破産等是レナリ姦淫罪ハ三十歳以上四十歳以下ノ年紀ニ於テ殊ニ多ク且ツ其ノ對手タル者ハ卒ネ同年者ニ少ナクシテ年少者ニ對スルヲ以テ其常トス而シテ此年紀ニ於ケル竊盜罪ハ稍其減少ヲ見ル終リニ一ノ注意ヲ要ス可キヲアリ即チ晚年ニ在テハ詐欺ノ如キ體力ヲ施スヲ要セスシテ實行シ得ヘキ貪婪ニ基因スル犯罪並ニ小兒ニ對スル姦淫ノ如トキ輒ク行ヒ得ヘキ身体ニ對スル犯行多キト是レナリ

年齢ノ犯罪ニ及ホス影響ヲ論スルニ當リ次ニ論スル處ノ社會上ノ二原因ヲ述ヘサル可カラズ蓋シ社會上ノ原因ハ其範圍極メテ廣ク諸種ノ原因ト相結合シテ特別ノ効果ヲ生セシムル者ナルヲ以テナリ

第一生時ノ治乱ニ因テ差等アリ

凡ソ年齢ノ少長ニ關シテ犯罪ニ及ホス影響ニ差等アルハ固ヨリ論ナシト雖モ又生時ノ治乱如何ニ因テ同年者ト雖モ亦大ニ差異アルモノトス換言セハ乱世ニ生レタル者ハ治世ニ生レタル者ニ比ス

レハ率ネ犯罪ヲ爲ス者多シ營ヘハ佛國大革命ノ騷乱ヨリ埃都ウインナノ大會議ニ至ル迄ノ間ニ生
レタル者ハ實ニ不良ノ犯罪骨相ヲ有セル者多キカ如シ

第三教育ノ及否ニ因テ差等アリ

教育ノ感化ヲ受クル極メテ強キ者ハ全ク教育ナキ者ニ比スレハ其犯罪ニ陥ル者率ネ少シ而シテ昔
時ノ少年及ヒ中年ニ近キ者ヲ以テ今時ノ同年者ニ比スレハ其犯罪數稍多ク且今時ノ老年者ト雖モ一
生ノ前半ヲ以テ後ノ一半ニ比スレハ亦其犯罪數稍多キカ如シ是偏ヘニ近時普通教育ノ著シク發達セ
ルニ職由スルニ似タリ果シテ然ラハ教育ノ犯罪ニ及ホス影響如何以下進ンテ此点ニ就キテ將ニ論
究セントス

雜論

典獄其他の實務家より本會の參考として意見を寄せられたる向少をからず本會爲めに裨益
を受くること多し是れ深く謝する所なり然るに空しく之を本會の徹底に假むるは如何にも
忍びざるを以て自今聊か短評を付して本欄に掲げ廣く會員諸君の參考に供せしめり
此ことを忘たらしむべし

編者 白

希望一束

●裁判所に前科調査の慎重ならんことを望む

今日の囚人中再犯以上の者固より多し然れども悪事に慣れたる者は大概は偽名をなし裁判所に於て
再犯の刑を免ぬかれ監獄に來りて初て再犯たる者と顯はるゝもの珍しからず是等は決して前に云ふ

再犯囚の部に入らざるものとす故に眞個の再犯以上は今日の所謂再犯以上の幾倍なるを知らざるな
り今日裁判所に於て云ふ再犯以上なるものは誠に再犯以上の一小部に過ぎざるなり是れ實に遇囚の
方針を定むるの一大妨害たすんばはわらず甚しきは先きには幼年囚として在監したる者後には其氏
名年齢を偽りしか爲め懲治者として更に入監するか如きおと無きにあらずと聞く其他古參の看守押
丁より再犯以上の囚人なるおとを見出さるゝ者の如きは常に之れある事實なり就きては裁判所に向
て切に前科調査の一層慎重なふんことを望まざるを得ず蓋し監獄に於ても再入以上の者を見出すお
とに注意を怠らざるへきは當然なれども裁判所に於ても今日よりも數層前科調査のおとに慎重の留
意わらんおと至當否必要ならんと思考するなり

●郵船會社命令書並に官設鐵道條例中に囚人及び其護送官吏運賃割引の事を加へられんことを望
む

私立鐵道會社條例中には囚人及び其護送官吏の賃金を減するの個條を以て暗に囚人の護送を嫌ふが
如き傾きなく金貨上の外にも大ひに便利を得るおと少なからず然るに均しく官の保護金を受け居る
おとよろの郵船會社の命令書中には此事無きを以て此便利を欲き囚人を北海道に護送する等の場合に
此利益を受くるおとを得ず又官設鐵道に就きても同様なり是れ豈に不權衡と云はざるを得ん哉依り
て私立鐵道會社同様に郵船會社命令書並に官設鐵道條例中に特別割引の事項を加へられんことを
切望す

● 刑事被告人及び無定役囚の運動時間は三十分以上一時間以内と定められんことを望む
 監獄則施行細則(第六十八條)に依れば刑事被告人及び服役せざる囚人は毎日一時間以内監房外に於て運動を許せざるより看守者の少人数等を辞柄とし一時間以内とある理由を以て毎日十分間若くは二十分の少時間運動を許すか如き向きもなきにあらざるやに聞く所僅少時間の運動にては何の利益もならざるべきなり且つ甚しきに至りては雨天には全く運動を許さざる所なきにあらざるよし一時以内とある規定の甚だ漠然たるに職由せずんばあやそ就ては三十分以上は是非運動せしむるよし一時一時間以内三十分以上と改められんよしを切望す蓋し十分若くは二十分の運動にては監獄則施行細則規定の精神を貫く能はざるよしを理の親易きものなればなり

● 一監房に容るゝ在監人は必ず奇数たるへし偶数たるへからず
 一監房に二人若くは四人等偶数の同房者あるときは不潔事の生ずべきは避くべからざるよしなり此の如き數を一房に容るゝの不可なるは今更喋々するを要せずと雖も特どり怪む實際は此の如き注意を缺き一房に偶数の在監者あるを見るよし往々にして之れあるを就ては一房に偶数の者を容るゝなからんよしに嚴密の注意あらんよしを當局者に切望す是れ監獄の清潔を保つ上に於て最も必要なる條件と思ふすればなり

● 役場區分の鄭重を望む
 役場は囚人の種類に由り成るべく區分するを可とするは論を俟たされとも就中幼年囚を丁年以上の囚人と同一の工場に於て使役し又は幼年囚中初犯の者と再犯以上の者とを同場に於て使役するか如きは頗る有害なるよしと思ふす然るに此の如き區分すら無き所も無きにあらずと聞く果して然らば構造等の爲め是れ以上の區分を爲し得ざる事情ある所なりとる切めて幼年囚と成年囚及び幼年囚中の再犯以上と否ざるの者とは役場を區別せられんよしを望む

● 監獄支署並に警察署留置場の改良の實に目今の急務なり
 監獄支署に於ては往々甚しく監獄則の實行を缺く向も少なからずと聞く又警察署留置場の如きは幽暗不潔にして殆んど人間を容るべからざるか如きもの多しと聞く果して然らば監獄改良に銳意なる今日に於て最も不面目最も不都合なるは此二種の監獄に若くものなかるべし監獄改良を説く者少なかざる今日未だ此二種の大不都合大缺點を痛言するものあるを聞かざるは奇怪千万と言はざるを得ず博士ツインス氏は其著書に於て米國の此種の監獄の爲めに揚言して曰く留置場及び小監獄は一時間囚人を置くの所なれども之れに改良を加ふるよし尤も難事にして今尙は一のホワルドを要すといへば今日の監獄支署并に警察署留置場に關しても實に一のホワルドを要するの感あるなり依ては當局者に向て支署及び留置場の改良を銳意斷行せられんよしを望むや切なり

● 監獄技監の設置を望む
 監獄の新築は目下各地に計畫せられ其構造の如何は極めて必要の問題なり然るに監獄なる建造物は他の建造物と異なるを以て其配置等は勿論建築方に至りても通常の土木師に之を委するに於ては將

囚人を同一の工場に於て使役し又は幼年囚中初犯の者と再犯以上の者とを同場に於て使役するか如きは頗る有害なるよしと思ふす然るに此の如き區分すら無き所も無きにあらずと聞く果して然らば構造等の爲め是れ以上の區分を爲し得ざる事情ある所なりとる切めて幼年囚と成年囚及び幼年囚中の再犯以上と否ざるの者とは役場を區別せられんよしを望む

● 監獄支署並に警察署留置場の改良の實に目今の急務なり
 監獄支署に於ては往々甚しく監獄則の實行を缺く向も少なからずと聞く又警察署留置場の如きは幽暗不潔にして殆んど人間を容るべからざるか如きもの多しと聞く果して然らば監獄改良に銳意なる今日に於て最も不面目最も不都合なるは此二種の監獄に若くものなかるべし監獄改良を説く者少なかざる今日未だ此二種の大不都合大缺點を痛言するものあるを聞かざるは奇怪千万と言はざるを得ず博士ツインス氏は其著書に於て米國の此種の監獄の爲めに揚言して曰く留置場及び小監獄は一時間囚人を置くの所なれども之れに改良を加ふるよし尤も難事にして今尙は一のホワルドを要すといへば今日の監獄支署并に警察署留置場に關しても實に一のホワルドを要するの感あるなり依ては當局者に向て支署及び留置場の改良を銳意斷行せられんよしを望むや切なり

● 監獄技監の設置を望む
 監獄の新築は目下各地に計畫せられ其構造の如何は極めて必要の問題なり然るに監獄なる建造物は他の建造物と異なるを以て其配置等は勿論建築方に至りても通常の土木師に之を委するに於ては將

問 答 監獄則施行細則問答

來大ひに不都合を醸すの恐れなしとせず現に建築學上の素人たる監獄官に於て建てたる建物却て土木専門者の建てたるものに優るやの向もなきにあらざると聞く然れども此は一時の出來事にして素人の監獄官吏決して技師に優るべきものにあらず唯々今日の土木師中未だ專ら監獄のよとを考究する者なきか爲め偶々此の如き奇なる結果を見るに至りしなるへし就ては英國等に於て設けあると云ふの監獄技監なるものを本邦に於ても設けられ監獄を新築し又は改築するに際しては監獄技監一切其工事を監督するものと定められんことを望む

●看守長の帽の改正を望む
看守長の帽は外見に付きても改正せざるべからざる點なきにあらざると雖も今其外見上のみとは姑く之を措くも該帽は廂あるか爲めに屈む時容易く落るの不便あり又風烈しき時の如きは爲めに之を奪はるゝと少なからず殊に逃走囚を追跡する等の場合には脱落し易きか爲め其不便甚しと聞く依りては体裁の點は兎に角實際の經驗に於て看守長の帽は改正を加ふるを要するものと云ふべきなり而して其改正の帽は如何すべしと云ふに上に云ふか如く容易く落つるものと云ふは即ち可ならん

問 答

本欄の問及答は固より私考に係るものなれば其當否を保つること能はざるは勿論尙ほ不充分の点と多かるべきを以て本欄の答に付き訂正の意見を有せらるゝ諸君は提擧の勞を惜まれざらんことを希望す

○監獄則施行細則問答 (承前)

編者 白

第二百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スベシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スベカラズ

問 中止中經過せし日數は懲罰期限に算入すべからざる以上は出廷當日は一日間懲罰を中止すべきや即ち減食は其當日三食共常食に復し屏禁暗室に處せられたる者の如きは其當日全一日間其罰の執行を中止すべきものなるか又は實際出廷に要する時間丈け懲罰を中止すべきものなるや

答 本條は裁判所の便利と裁判事件に對し囚人の利益とを圖られたる規定なりと信す即ち處罰中なるを以て出廷を延期するか如きことありては裁判所に差支を來すのみならず囚人の不利となる事なしとせされはなり果して囚人の利益を圖るべしと本條所定の一原因なりせば閤室より引出して直ちに裁判所に出す等のおとありては本人の心身疲勞を爲め充分の辨論を爲すを得ざるべく本條を設けたる旨趣に背かん就ては出廷當日は囚人をして常の如き元氣を有せしむるべしと至當なるべしは出廷當日一日間の懲罰を中止すべきものと思考す

問 出廷當日を豫め裁判所より通知なきに於ては其全一日間の懲罰を中止する能はざるべし如何に裁判所の召喚に應じて囚人を出廷せしむるには前日若くは前々日に裁判所より照會あるべし常なれば實際不意に本人を引出すか如きおとなるべし若し稀れに不意のおとありとせば其は實に例外なるを以て宜しく本條の精神を參照して懲罰を中止すべきなり

問 本人の心身を疲勞せしめざるを要するものと一の原因となりて懲罰を中止するものなりとせば

問 答 監獄則施行細則問答

出廷前は其中止の必要あるも裁判所より歸りたる上は其日直ちに懲罰を執行して然るへし如何
 答 裁判事件にて出廷し歸監したる時は尙ほ其事件に付きて思考するを要するまどあるへく之か
 爲めにも心身を甚しく疲勞せしめざるを要すへし若し裁判所に於て不服のみどありて歸監するも
 直ちに個室に押込めらるゝに於ては其意思を貫かんとするも甚だ困難なるへし且本條にも明かに
 當日又は日數どあるまどなれば旁々全一日間懲罰を中止するまど至當ならん

第二百二條 兩脚ニ鈇ヲ施ス者改悛ノ状態ハレ其施鈇期限ノ半ヲ經過シタルト

キハ一脚ノ鈇ハ免除スルコトヲ得

問 監獄則第四十五條には兩脚又は一脚に鈇を施すどありて兩脚に施鈇するも又は一脚に施鈇す
 るも等は皆典獄に一任せられたるか如し斯く典獄に任せらるゝ方懲罰の斟酌取捨自由にして
 懲罰の効用も隨て多かるへきか如く思考せらる然るに此施行細則に於て施鈇期限の半はを經過せ
 ざれば一脚の鈇を免除するまどを得ざるか如く規定せられたる理由如何

答 兩脚に施鈇せしもの一脚免除のみと典獄の自由に任かするは如何にも懲罰の範圍を自由な
 らしむるの利ありと雖も此利あれば又彼に重く是れに輕さの弊隨て生ずへし施鈇の如き重き懲罰
 は寧ろ範圍を廣ふするの利よりも彼れに重く是れに輕さの弊を懼れずんばあらず是れ蓋し本條を
 設けられたる所以ならん又一方より論すれば斯くの如き規定ありては典獄の勝手にて四五日間
 鈇を兩脚に施し其後は一脚を免除する等のまどあるなく監獄内最重の懲罰をして愈々益々重もか

かしむるを得へし

第四百四條 鈇ヲ施シタル者改悛ノ状態最モ顯著ニシテ其施鈇期限ノ四分ノ三ヲ

經過シタルトキハ假ニ其鈇ヲ免除スルコト得

問 監獄則に依れば施鈇期限は一年以上五年以下なれば此範圍内に於て典獄か之を免するは差開
 なさか如し然るに假りに之を免除するにも期限を定められしは如何

答 典獄に於て一どたひ施鈇期限を申渡したる以上は本條に依らざれば之を免除するまどを得さ
 るものどす而して此四分の三を經過したる時としたるは想ふに假出獄の期限の例に準したる者に
 して其理由は前條に云ふか如く各地免除の方針區々に流るゝの弊を豫防するに在りと思考す

第二百五條 假ニ鈇ヲ免除シタル者其罰期内更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ

復シ其假免中經過セシ日數ハ施鈇期限ニ算入スヘカラス

問 更に懲罰を受くる時は直ちに之を復すどある以上は故意にわらずして一朝の過誤に出て犯則
 せし爲めに懲罰を受くるも亦施鈇を復せへきや

答 一朝の過誤にて犯則し輕き懲罰を受くる者の如きは其懲罰賞表を受くるの妨げともならざる
 まどなれば斯の如き者に對し本條を適用して施鈇を復するは聊か酷なるやの感なきにわらずと雖
 も茲に單に懲罰を受くる時どある以上は如何なる輕き懲罰なりとも苟も懲罰を受くるか如き處爲
 あるに於ては再び施鈇の罰に復せざるを得ざるまどと思考す就ては過誤の犯則に起因せし懲罰に

就ては例外を設けられんことを希望す
第百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

附 則

此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長之ニ當ルヘシ
(監獄則施行細則問答完終)

●新法令問答

問 本年七月二十四日勅令第八十八號を以て内務省の官制を改正せられしか其第七條警保局に於て掌るべき事務は四項にして毫も舊官制と異なる所を見ざるに新官制に基き各局の分課と定められたる内務省分課規程に依れば警保局監獄課の部に假出獄及監視假免に關する事とありて從來警務課の事務なりし監視假免の事を監獄課に移されたり此は官制改正の結果と見るの外なきか官制の文字は舊官制に異なるなきを以て其理由を見出すに苦む右は如何なる理由ありての事となるや
答 監視假免の事は警察官に於て爲す所の被監視者行狀視察の結果なれば純然たる警察上の事務なるは明かなる事とす且夫れ一度ハ監獄に入りたる者の監視假免の如きは監獄に縁なきにあら

すどせるも監獄に入る事となく單に監視のみに附せらるゝ者の假免事務の如きに至りては毫も監獄に縁なきなり要するに監視假免事務の性質は官制の改正に依りて變更を來たせべきものにあらず然るに之を監獄課の事務と爲したるものは等しく警保一局内の事務なるを以て其分擔上の都合斯く定められたるものならん即ち事務の性質に拘泥せず實際の便宜に出で斯く監獄課の所屬とせしに過ぎざる事と思考す

問 改正内務省官制に於ては監獄巡閱の官吏中に内務書記官をも加へられたり是れ參事官の定員減少の爲めなるべきか而して監獄則に監獄巡閱官とあるにも拘らず唯監獄巡閱の事を掌るとあるを以て見れば内務書記官の資格にて監獄の巡閱を爲すものにして監獄巡閱官とは稱し難きか如何
答 監獄則のみを見れば巡閱官なる官名あるか如くなれども從來どても内務省參事官の資格にて唯た監獄の巡閱を命せらるゝ慣例なれば決して官名上監獄巡閱官なるものありしにあらずしなり依て此點に付ては官制改正ありしと雖も異なるよしと就ては監獄則に所謂監獄巡閱官なるものは官名にあらすして監獄を巡閱する官吏を意味する事と思考す

問 監獄巡閱官とは監獄を巡閱する官吏なりとせば監獄則第四條第一項の巡閱官は内務省參事官書記官のみに限らざるものなるや
答 然り内務省の官吏にして監獄を巡閱し得る資格あるものは即ち監獄則第四條の監獄巡閱官中

に包含すべきものと解釋して可ならん例せば内務次官若くは警保局長又は特に内務大臣より監獄巡閲のおとを命せられたる吏員にし監獄を巡閲する者の如きは皆監獄巡閲官に外ならざるへし

問 今回敕令第百七號を以て集治監假留官官制中改正の件を裁可せられ第五條の一週年末の五字を削除せられたる理由如何

答 從來賞與のまとは一週年末に限るゝとなりしか賞與は必ずしも年末に限らざるを得ざる理由もなきのみならず却て賞すへき所爲と賞與と相伴ふ方賞與の効驗多かるへし蓋し或る賞すへき事を做し遂けたる者偶々年の始めに之を爲すに於ては一箇年を待たされは賞與に與かる能はざるか如きは豈に迂濶のみならずや依て今回の官制改正に於ては都て一週年末の制限を削除し何時にても賞與し得るゝ爲されたるものならん是れ集治監假留官官制にも斯の改正ありし所以なりと思考す

問 北海道集治監官制は今回敕令第八號を以て制定せられたり從來監獄則には集治監とありて終始變るゝとなりしも一時は監獄署と改名して他の道廳監獄と混同するか如き外觀なきにならざりし北海道廳集治監も今回此官制制定あり北海道集治監として其土黨堅固なるを得たるは獄事の爲め一大慶事と言はざるを得ざるが從來三集治監典獄に於て監理せしを一典獄三分監長にて監理せることとなりしは北海道集治監全体として之を見るときは稍々其位を卑ふしたるもの如し就ては三典獄と止め斯かる組織に爲さざるを得ざりし理由聴くを得へきや

答 從來一集治監に一の高等典獄ありて各其監の主權を握り各々見る所に從て其監を監理せしを以て其土地の事情より唯すゞ監獄則執行上變則の行はれ易き土地柄たる北海道なるに恰も一集治監は一個の城廓の如く從て監を異にし人を異にするの間其取扱に少なからざる差異ありしやに聞く而して其因て來る所一朝一夕のみにあらず各集治監創設の際より各々其主義確立し居りしものとなるを以て其根底甚だ深きに準して其害も自然是れなきにあらずりと察するに今回の如く典獄は一人として萬事其實に當り分監長は一人の典獄の命を受けて其分監を監理すへきものと爲し大に四肢分立の弊を一洗し脈絡貫通の方法を求められたるもの或は上陳の如きありしに由らん乎若し果して然りとせば典獄の數を減したるか爲め或は其位置を下けたるか如き外觀なきにあらずと雖も北海道集治監の活動は却て之か爲めに數倍の自由を得へきを以て頭數の減却は却て活動の利便と勢力との増加を來たし其實際の面目は大ひに從來に勝るものあるへきを信するなり

問 今回敕令第百十一號を以て北海道廳官制の改正を發表せられ道廳監獄の典獄を一人と定められたるに付ては從來函館札幌根室の三監獄署は如何なるへきや

答 今回の官制にて北海道廳の地方監獄も府縣監獄同様の組織と改められたる所以を察するに從來の如く函館札幌根室の三監獄署相鼎立して各々其分署を有するが如き複雑なる組織にては獄務の統一得て望むへかざるに由るならん就ては今後は札幌監獄署は府縣廳所在地の監獄署同様に北海道廳監獄署となり從來の函館監獄署根室監獄署福山監獄分署其他は皆な監獄支署の名稱の下に

問 札幌なる監獄署に隸屬するよど、考ふ
 他の地方に於ては監獄醫は判任待遇なるが北海道廳改正官制に於ては純然たる判任官と爲されたり他の地方廳と此差異あるは如何なる理由ありてのよとなりや

答 監獄醫は其責任重大にして他の判任官以上の監獄官に比して寧ろ勝るも劣るよどなし何となくは獄務中最重要事件の一たる監獄衛生の事は一に監獄醫の所辨如何に存し他の吏員は殆んど之れに關係し得ざるにあらずや要するに監獄醫は監獄官中重要の一官吏たふすんはあらず故を以て業に既に内務省直轄集治監留監に在ては純然たる判任官と爲しある也其地方官制中判任待遇とあるものは蓋し從來雇の身分たりしを以て遽かに判任官と爲すに躊躇し先づ一時判任待遇と爲されたるに過ぎざるよどならん今同の改正に於て北海道廳の監獄醫を判任とせられしは頗る其當を得たるよど、信す依ては速に地方官制にも斯く改正を加へられんよどを望まざるを得ず

問 勅令第百十三號を以て北海道集治監分監長及北海道廳典獄特別任用の道を開かれたるが其條件中判任官六級以上の俸給を受ける者とあり之を昨年十月勅令第百二十七號を以て發表ありし一般地方典獄に任用せざるよもの、資格たる判任官三等以上とあるに比較すれば月俸額に於て十圓の差あり右は如何なる理由ありて然るものなるや

答 典獄となり得る者の俸給額に於て拾圓の差あるは如何にも其權衡を得ざるか如くにして一見或は北海道廳分監長及び典獄の價値にも關するか如くに思ふ者なきにあらずるへしと雖も其實決して然らざるへし何となくは北海道全管内の地方獄を管理するの難事なるは一般府縣の監獄管理に比し毫も譲らざるのみならず却て勝るものあり又分監長の如きは弊惡治し難き徒刑囚を拘禁する監獄の長なれば内務省直轄集治監留監の典獄に比して其困難大差あるべきの筈なく此事務の困難は以て分監長及び典獄の位置を高むるに足ればなり而して其任用方に於て斯く其範圍を廣ふせられたるは其理由を見出すに困しむ廉なきにあらずと雖も要するに上陳の如き困難なる地方なるを以て特に深く實際の便を圖られたるに過ぎざるよと、思考す

問 勅令第百十六號を以て北海道集治監看守に限り勤続滿五年以上にして勤勞拔群なるものは現俸四分の一以内の加俸を給せざるよとなりしは如何なる必要ありてなるや

答 北海道に職を奉ずる官吏には曾て一般に手當金を給與せられしよどありしか之を廢されたる以來薄給の者は生計に苦むよと少なからずと聞く殊に看守の如きは其俸給府縣と同様なるか爲め難きを去て易きに就くは人情の免かれざる所なるを以て何となく工夫して府縣の看守と爲らんとするもの多く爲めに監獄の管理上妨げなきにあらず甚しきは看守の逃走屢なるに窮するか如きことありしと此の如き事情より今回北海道集治監看守の爲めに特に加俸の制を設けられたるものと思考す斯く獎勵の具備はる以上は徒らに典獄をして看守の足留めに區々たらしるか如き弊を一掃し得べく北海道集治監の爲め誠に賀すべきの美制なりと云ふへし望むらくは北海道集治監に限らず北海道廳一般の監獄にも此制を適用せしめられんよとを

問 勅令第六十九號を以て巡查俸給令を定められ其通常俸給を一級十圓二級九圓三級八圓と一定せられたり、隨つて看守の俸給如何を思ふに昨年十月勅令第二百二十九號を以て集治監假留監看守俸給の件を各地方にも適用するまゝ定められ通常俸給は六圓より十圓まで其幾等を異にするも妨げなきのみならず其最下額に於て實に巡查と貳圓の大差あるなり斯は實に看守諸君の爲め否獄事の爲め大ひに悲むべきこととす然れとも此は偶然の出来事と信するを以て久しからずして看守俸給も巡查と同一なるを得ん此悲しむべき出来事の生存すべき時日は決して長からざるべきなり蓋し其職務上櫛風沐雨時としては白刃を冒して兇徒を取控しかざるを得ざる等毫も巡查と看守と異なるまとなきは當局者の明既に能く察知せられ居るべきは信じて疑はざる所なればなり

問 今回勅令第七十號を以て看守は判任官を以て待遇せらるゝまゝとされり此は監獄社會の大慶事なるか之れに就ては昇級の規定等其他悉く判任官同様に取扱はるゝものなるや

答 今回の勅令は只單に待遇を定められたるまでなれば看守に付ての従前の規定は總て従前の通りなるへしと思考す昇級の規定の如きも決して判任官の制限を適用するの限りにあつざるへし其他看守の爲めに設けられたる特例及び利益は決して之を失はざるまゝと信す

翻譯

○露國萬國監獄會議決議

(萬國監獄委員會雜誌抄譯)

正員 陸軍教授 野村泰亨 譯 東京

譯者曰く本會の議題は正員武田英一君本誌第二拾七號以下に譯載しあれども今新たに加入せられたる會員諸君の便を計り重ねて茲に掲げぬ

第一部

第一問の答

第一問 罪人引渡條約中に記載する刑法の犯罪には如何の方法に由り又如何なる度合まで各國同一の名稱を付し且つ精密なる定義を下すを得べきか

(一) 罪人引渡條約は各國特別の刑法上密接の關係あれども現今尙ほ此刑法をして皆同一の模範に據らしむるを得ず故に今萬國條約に於て時に或は同一ならざるの犯罪を釋明するに同一なる名稱を以てせんとするは無用の事といふへし

(二) 右特別の刑法は罪人引渡の原則を以て一般の準則とすへけれども各國に於て必要なりとする一切の斟酌を加ふるまゝを望ましけれ

(三) 凡そ特例なるものは動もすれば遂に一定の準規となるべきものなるか故に若し各國特別の法律に依り引渡を以て一定の原則とするときは右引渡に關する萬國條約に於ては其方法手續を變更するを得へし且此法律中には引渡すべき囚徒の犯罪を枚舉せずして而も引渡すべからざる犯罪を條記せるまゝあるへし

監獄會議は罪人引渡に關し各國の刑法學者が犯罪に同一の名稱を下し明確の釋義を附するを

第二問の答

目的とし協心戮力して考究するあらんことを期望す

第二問 乱酔は如何に刑法中に掲載するを得べきか或は之を以て直ちに犯罪其物なりと爲すべきか或は乱酔に際し罪を犯したるときは爲めに其犯罪の性質を消滅せしめ又は輕減し又は加重すべきや否

(一) 乱酔の状は直に其ものに就て考ふれば罪状を成すものにあふざるべきか故に人々の危懼を致し或は破廉耻を生ずべき性質の醜行を爲し或は靜寧公安を紊乱すべき暴舉を以て公然此状を發表する場合にあふざるよりは決して懲戒を加ふべからず

(二) 乱酔の常習ありて公共の救卹を仰ぎ或は爲めに乞食となり或は爲めに其身のみか他人の危害を致さへき者の爲めには貧院入若くは懲治院入等の如き懲戒法を法律として設くるは無用の事にあふざるべし

(三) 葡萄酒及び精酒を販賣する者若し現在乱酔せる人に酒類を販賣するに於ては刑法上其責に任せしむるを急務とす

(四) 乱酔上犯罪の場合に於ては左の如く處分すべし

甲 乱酔未だ全かたふさるときには決して其行爲に關し其責を免かるべしを得ず蓋し立法官は此状を看て例に依り情狀酌量し又加重すべきの釋明を下すべからず唯々其時の場合に隨て此處刑の方法を取捨すべきなり

乙 完全なる乱酔の状は左記二項の場合を除くの外本來其行爲に關し責任なきものとす

一 乱酔其もの、刑法上犯罪を成すべき場合

二 本人乱酔して必ず犯罪を爲すべきと知り或は時々爲めに之を行ふとあるを知りて乱酔する場合

右乱酔して必ず犯罪を爲すべきを知る場合には故意を以て罪を犯したるの責に任し次に時々爲めに之を行ふとあるを知りて乱酔するときは其罪怠慢に出づるものとす

第三問の答

第三問 監獄學教授の方法を制定するの可否如何

前項果して可ならは如何の方法により監獄の實務を助けそ又其獄政を害せそして能く監獄諸般の事實と實施上の問題とを實際に研究せしむるを得べきか

(一) 本會議の説に由れば監獄學の教課は甚た有益なるを以て之を設くるよと期望に勝へす且監獄紀律上に於ても又學理上處刑の適用と考究を必要とす

(二) 本會議は各國の大學に監獄學教官を設け又監獄局をして此學科の講究を維持し且獎勵するに必要なる便宜を計らしめんと欲す

(三) 本會議は監獄内に監獄書籍館を設立し監獄官の用に供すべきよと期望す

第四問の答

第四問 左に掲ぐる二法を刑律中に加ふるには如何なる種類の犯罪に對し如何なる條件を以て如何なる場合に之を用ふるを可とせるや

- 一 裁判官は犯罪人に對して單に勸戒を加へ別に處刑の申渡を爲さず是を勸戒法と爲す
- 二 裁判官は犯罪人に對して罰金禁錮其他の刑を申渡せども其犯罪人にして再び罪を犯すに至らざれば前に申渡した

本問題に就ては立法部及び總會議に於て討議を逐けたるの後其決議を猶豫するふとを宣告せり

第五問の答

第五問 幼者にして過失又は犯罪ある者は如何なる官廳に於て其措置を規定すへきか

此過失又は犯罪にして左の措置を要するときは如何なる事項に就き如何なる原則に依りて之を撰定すへきか

- 一 刑法上の刑に處して監獄に拘禁するふと
 - 二 悪少年の爲め設けたる特別懲治院に送付するふと
 - 三 公權の監視に属する幼者を入へき教育院に送付するふと
- 以上の措置を爲すに當つて標準と爲さへべき者は其幼者の年齢のみに止るへきか又其年齢に關する條件如何

立法部はドリール氏の報告に從ひ討議の後左記の如く釋明せり

- (一) 少年(即ち十六年未滿)に對し犯罪の有無及び善惡の識別に關する疑問は今之を措き之に代ふるに下文の疑問を置くを必要とす
- 曰く少年は公權の監督を受くるを必要とするや
- 曰く少年には或は尋常の教育を授け或は懲戒法を施すを必要とするや
- (二) 方さに少年の爲めに施すへきの方法を撰定するには少年をして罪を犯さしめたる所以の原因之か知識の發達の程度其身を寄せて薰陶を受けたるの境遇其來歴若くは性質に由らざるへからず又少年の年齢は其精神を表するの徴候なるを以て尤も重要なるものとす
- (三) 裁判所は滿十六年以上二十年以下なる少年の犯罪如何を裁決して若し少年を以て有罪と認識するときは尋常認責の輕さより法定の處刑の重きに至るまで隨意に處刑の宣告を爲すの權あるを要す

るを要す

總會議は此疑問を以て次回の會議に譲るへしとの決議を爲せり

第六問の答

第六問 贖物の受寄及び贓匿者を制して能く實功を察せんとするは如何の方法を用ゆへきや

有効の法に依り贖物受寄を處せんとするには左の三項を設くるを可とす

- (一) 銀行營業人若くは兩替商若くは寶玉商際物師等に對し贖物受寄に關する條例を設くるふと
 - (二) 贖物受寄は從犯と爲さずして特別の犯罪と爲すふと
 - (三) 贖物受寄の再犯に關し遞進加重の法を定むるふと
- (未完)

○獨國監獄法(千八百八十九年刊行)(第三拾八號の續き)

獨國 ヘルマン、ゾエフエル述

正員 加地 鈞太 郎譯 歐洲漫遊中

第十三款 作業利益金に囚徒を參與せしむる事、即工錢

舊時は囚徒作業の収入を以て全く刑罰執行の費用を補充するものと看做せり故に若し作業収入の金額囚徒の費用より超過せるときは政府の利益となりたるものなり、近時に至り費用の補充と作業収入金の使用法とは全く別問題なりとの説勝を占むるに至り、囚徒の作業は國家に属するものなれば

囚徒は其賃銀を要求するの權あるものとなしとの原則を以て正當なるものとすなり而して囚徒に作業利益金の分け前即ち工錢を規則立ちて支給するは是れ全く國家か囚徒に對し隨意の贈與を爲すに外なきるなり故に各囚に屬する工錢は一々帳記しありと雖も囚徒は其放免の時まで此工錢に對し決して權利關係を有するものにあらざるなり抑も囚徒に作業利益金の一部を支給する所以は一は囚徒をして獨り刑の恐怖心より作業に従事せしむるのみならず尙は賃銀を得んどの利益心を以て其作業を悦ひ之に慣熟せしむるの精神を誘導する普通人類の經驗に基きたるものにして又一は斯の如く作業利益金の一部を支給するときは囚徒出獄の後生計の道なきとき一時其困難を救ふの資となすにあり

第十四款 監獄統計

夫れ監獄の諸官は一般に及各別に囚徒の状況を明示する日報を獄長に提出するは監獄の服務上及秩序上必要とせる所なり又獄長は毎月若くは一年に數回全体の報告を其監督官廳に差出し監督官廳は毎年其監督する一切の監獄に關する報告を中央廳に差出し中央廳は是等の明細報告に基き毎年の統計を調製するものとす此統計たる官廳の行爲に關する解説(司法事務統計)及犯罪の原因一覽(刑事統計)を表明するの目的を以て調製せらるゝものとす獨逸以外の諸國に於ては各監獄に於て此二者に付獨立の統計(即ち監獄統計)を有する所多く之れありと雖も獨逸に於ては此統計は一般に司法及刑事統計の一部を爲すに過ぎず是れ監獄の爲め甚取らざる所なり巴威爾國の統計表は司法事件の外

に「監獄」と題する獨立したる一章に於て裁判所監獄及已決監の在監人の状況を掲出せり夫れ監獄統計なる獨立の事業を設くるは獨國現時の制度よりも利益多かるべしと斷言せざるを得ず何を以てか之を言ふ蓋し一般の刑事統計よりは一層確實なる材料に依りて之を調製するを得べしなり即人員計算表を使用し且つ囚徒を正道に導くべき紀律の影響に依り犯罪の沿革及刑の實効に關し有功の状況を知るに最も近き材料を蒐集するを得べしなり、右に付在監人の疾病及死亡に關する統計上の詳密なる調査あるべきは別に言を俟たざるべし而して統計上の材料を調査するに付ては其事務統計に係らざる以上は監獄主任の中央廳に於て之を行ふを適當とす但し監獄統計中社會に關する部分は統計局をして之を行はしむるを可とするなり(ホルツェンドルフ氏著監獄學要論)

第十五款 出獄人の保護

抑も出獄人の保護は刑罰の執行と同く實に重要なものとぞ、囚徒にして本人及其家族の將來の爲め他の補助を仰ぐとなくして出獄し得るものは至て稀なれば出獄後生計を營むに付困難を極むべきは囚徒の一般に免れざる所ならん、此困難なるが故に出獄後未だ幾くもあらざるに再び監獄に立還るに至るなり故に出獄人の保護は社會の義務と云はざるべからず然れども國家は自ら此保護の勞を取るべきものにあらず國家は單に結社又は一個人に於て之を保護せるの途を發達せしむるべき自由を與へ置かざるべからず、獨國を初め其他の國々に於ても夥多の保護會社なるものを設け出獄人に第一の生計と第一の住居とを授くるを目的とせざるはなし然れども出獄人を雇ふる、か如きは公衆

の忌む所なるを以て保護會社の事業も亦容易ならずと謂ふへし而して此疑獄は雇主より却て職工仲間の間に一層強なるへし故に此世人の疑獄に對し出來得べき丈之を排斥せざるを以て其任となさるへからず然れども國家も亦彼の警察監視及少くも公權剝奪の刑を廢して以て此事を獎勵する所なるへかたず蓋し此二制は其利益至て少くして反て害多しとす何ぞなれば監獄より出てたる者をして職業及營利の途に困難ならしめ隨て適法の生活を爲すことを非常に難からしむるものなればなり

(獨國監獄法學)

特別會員寄書

●小原重哉君の寄書 (承別)

流罪及び徒罪の女犯所過但し流罪の期限は四年以上

女犯は別舎にて服役し以て男囚と殊別す

女犯其夫と共に罪を犯し共に已決の囚となり入監すると雖も遂に相看見する事をも許さず但し第一等に進めは男犯と齊しく外住を許す

女犯の食料は男犯の第六等と同じ

女犯の中終身入監の者滿三年乃至五年魂守正しきときは外出の印牌を與ふ又外住したる後は一等の男犯外居する者と夫婦たらしめんと乞ふ者あれば之を許すの法あり外居を許す注措は總て男犯の條

と同じ保證人たらしむるは夫ある女犯は其夫現在夫なき女犯にして往きに外居の男犯其女犯と夫婦たらんと乞へば乞ふ者をして之か保證人たらしむるを可とす此女犯に幼童ある時は掌印官の命を以て幼學校へ入れしむ其女犯及び其子の假父死すれば相續を許す之を相續せし其子は一般平己の人權を有するは勿論たり

監獄官員設置大畧

- 掌印官 一人
- 副官 一人
- 醫生 二十一人
- 藥舖 一人
- 醫生 迭代 一人
- 獄丁首長 一人 此官は毎日一次監内を巡視し事故の有無を記して掌印官に呈す
- 歐洲人工匠教師 三五人 此教師は監犯の控取を掌ぬ
- 徒役人控取 一人
- 書記 一人
- 上等通辨 一人

右の官員にて監犯の數一千五百人より三千人に迫るも容易に官員を増加せずと云ふ但し官員の階級

顯示の爲め常に一種の制服を著す
第二等の服役人中より獄署に使役する者左の如し
會計掛 二人 但し一人は掌印正副官に属し一人は獄丁首長の正副官に隸す
獄丁を五等に分つ左の如し

第一の獄丁は 監犯五百名に 一人 但し月手當五弗

第二の獄丁は 監犯二百名に 一人 但し病監に属する者日擬作十「セント」

第三の獄丁は 監犯七十五名に一人 但し管門人に宛て一門に三人とす月手當三弗十九「セント」

第四の獄丁は 監犯二十名に 一人 但し月手當二弗と二十八「セント」

第五の獄丁は 監犯二十五名に一人 但し皂快に宛て月手當五十「セント」

工匠の役に服する者百名に獄丁四人を宛つ其差等左の如し

第一等 一人 第二等 一人 第三等 二人
手當金を給與する所の工匠一ヶ月餘病監に在て休役すれば之を與へす

獄丁は永く病監に在りと雖も日擬作あり伴病は否らざるのみならず罰則に問ふ諸廢の皂快に出る第二等の服役者は月手當二弗と七十五「セント」を與ふ
監獄掌印官職權
監中の控取罰則其他方法の舉措は掌印官に委任す

大伴戻者懲戒方法
服役の主使者に押解し又は獄則を犯す類は幾等に進みたるも皆第五等に貶し懲戒の爲めに唯一人別室に入て減食す別室は罰室にあらず彼を一室に居らしめ重き勞役を命し獄丁一人監守して其怠慢を責督す若し室外にて工業する者あるとも接言を禁す猶ほ悔悛せず犯そものは鐵鏈中最大の重鎖を張挂す

第二等三等六等に與ふる食料の定め
但し輕働者は食料を減少す第二等の者は擬作金を以て嗜好の魚菜に充つ

飯三十二「アウンス」即ち二「パウンド」なり
塩八「グラム」即ち「アウンス」の半 豆五「アウンス」

病後脱肺の者及び女犯の食料
飯二十四「アウンス」 豆二「アウンス」 塩八「グラム」 食油五「グラム」
但し右三食料の外毎月五十「セント」を以て魚菜を充つ

右食物商賈より買入の次第は維多利亞府獄署の則例に同じ
監犯の疾病は醫生診脈して病症書を作り與ふ可き食物の品類を記して毎朝掌印官の副官に通告す副官之を査照して食物納入の牙指へ命す但し月末勾會の時右書面に照して算遣す

監犯の衣服は第一等を除くの外は獄署より給與す第四等第五等の重苦役に服する者は内居の衣服一襲外役の衣服一襲半年に一次給與す第二等第三等第六等の者には半年に棉布二丈七尺を與ふ裁縫する能はざる者は服役年中縫工の手を借り工直を辨す

監犯執れも荒き毛布一ヶ年に一陳を與ふ

監犯の衣服は獄丁の首長毎月幾回も檢査し汚損の有無を記して掌印官に申報す

歐米人には半年に上下の衣服二襲を給す帽一蓋相衣四領沓一足一ヶ年に粗毛布一陳但し衣服及び諸品を給與すれば必ず登簿す

通信

●看守教習 岡山縣看守教習所第一回召集の授業生は二ヶ月間修業の後七月廿四日廿五日兩日卒業試験を受けしに受験者九名(十名の内一名は病氣のため受業生と解く)教習課程を及第せり依て廿七日卒業證書を授與せられたり其内貳名は優等點に達したるを以て各賞状を與へたる其人名左の如し

- 優等 尾田幸太郎氏 全山口隆氏 大森金次郎氏 鹿取八太郎氏 大村雅吾氏 小野田誓氏 中島長太郎氏 吉田銀次郎氏 長谷川豐吉氏

龍造寺大八氏は栃木縣看守教習所第一回卒業試験に及第し該卒業証を附與せられたり

(右 岡山縣監獄署庶務課報す)

秋田縣監獄署に於ては第一期看守教習所受業生六人の内五人に八月十四日卒業證書を附與せり一名は尙一ヶ月の練習を要す其成績及證書授與式の概況左の如し

第一期看守教習生試験点数表

刑法	監獄則	看守及諸人分掌例	記憶申報心得	戒護の心得	合計	平均	人名
九十点	百点	八十五点	九十点	八十点	四四五点	八十九点	船木三重郎
九十点	九十五点	七十五点	九十点	八十五点	四三五点	八十七点	妹尾準三
百点	八十点	八十五点	八十五点	八十点	四三〇点	八十六点	齋藤左助
七十点	九十点	八十五点	八十五点	八十五点	四三〇点	八十三点	瀧澤保太郎
六十五点	六十五点	六十五点	六十五点	三三〇点	三三〇点	六十六点	宮木金吉
〇	〇	〇	五十点	六十点	百十點	二十二点	谷口兼藏

午前十時受業生(若者)式場へ參集次に教官及判任待遇以上の署員參所各設けの席に若く次に所長は典獄を式場に案内し所長より順次卒業證書を授與し且つ教習所の成績を報告し了て典獄は受業生に向ひ監獄官は徳義を重し義氣を守り秩序紀律を厳正にせざるへかふるおと等職務要点を懇篤演示せり

(右 秋田縣監獄署報す)

宮城縣監獄署に於ては昨明治二十三年十二月看守教習所設置以來茲に教習生を募集せし事第四回

及ひしか客月迄卒業せし人名左の如し

第一回 小野貞七郎氏 田中喜左衛門氏 飯塚文之進氏

第二回 (優等)遠藤多利吉氏 佐藤柳次郎氏 石塚留丸氏 澁谷與一郎氏 鈴木竹三郎氏

第三回 高橋近之助氏 大宮深藏氏 遠藤久藏氏 田中卯之吉氏

第四回 (優等)平林俊治氏 (優等)藤村國松氏 猪狩久清氏 阿部玄作氏 櫻井房吉氏

佐久間増治氏 皆川親昌氏 牧 將彌氏 一條要八氏

(右 宮城縣監獄署報告委員正員石井直長報す)

●精勤證書 今回福島縣に於て看守精勤證書を受けられたる人名左の如し

中西慎終氏 渡邊材行氏 佐々木太郎氏

(右 福島縣監獄署報す)

本會記事

●監獄官の任免異動

大坂府の部

監獄署教誨師 翠 采 教 順 君

里 見 法 爾 君

監獄署教誨師を命せらる

教誨師を辞せらる

任大坂府看守長、十級俸を給與せらる 看守 伊集院幸八君

雇 林 繁 雄 君

栃木縣の部

任大坂府監獄書記兼看守長、十級俸を給與せらる

非職を命せらる

看守長 永島小三郎君

北海道の部

非職北海
道監獄書記 戸 澤 迂 岳 君

福島縣の部

若松監獄支
署監獄醫

關 良 一 君

任北海道廳書記叙判任官四等、下級俸を給與せらる

任監獄醫若松監獄支署在勤を命せらる

小川新次郎君

●大坂獄事會の問題 過般大坂府に於て催されたる近縣典獄協議會の問題は會員諸君研究の好材料たるべきものなれば左に登載す

囚人ニ對スル民事召喚狀執行ノ實蹟如何○控訴豫納金不免除ニ係ルモノ刑期起算方附リ上告申立ノ後趣意書差出期限ニ趣意書差出サ、ルモノ及上告取消願出タルモノ、刑期起算方區々ニナリ居ラサル乎一定ヲ要スル件○看守ヲシテ看守長代理タラシムルコトハ不相成旨ニ付各廢止ノ事ト思考スルガ實地看守長ニ不足スル箇所アリ是等ニ對シテハ如何取扱フ哉○囚人大小便行キノ方法○在監人懲罰處分一定ノ事○傳染病者アルトキハ直ニ通知ノ事○役業ハ同業目内ト雖モ其働ノ差アルモノハ食料ニ區分セントスルコト○未決中ノ發信ノ手續中囚人トナリ發信シタルモノアランニ是等ハ已決ノ度數

ニ算入スルヤ○死体下渡願ニ願人ノ身元証明ヲ要スルコ○監視ノ執行ハ引受人等取糺シタル上爲スヤ否ノ○死者ヲ假葬スルニ各種別ニ依リ區分スルヤ否○曾テ議決ニヨリ通知シ來リタル看守押丁免職通知ヲ廢止シテハ如何○工業ノ科程ハ時間ニ依ルカ將タ日ニ依ルヤ○食費ヲ償ヒ得サル役業アルヤアレハ食物購求ノ特例アルヤ○刑事被告人ノ看病及理髮夫使用ノ方法○慈惠費使用方及豫算上ノ事○監獄署ノ會計事務ハ内務部第四課ニ於テ取扱フカ否ヤ若シ取扱フトセハ其區域及命令等ハ如何○役業ニ關スル事務ハ何課ニ於テ管掌スルヤ又授業手ハ何課所屬ナルヤ○看守教習場ノ設置及日課訓練ノ方法如何○司獄官及囚人身分帳簿ノ設置方法如何○司獄官吏積立金ノ方法如何○領置金受授ニ係ル會計上ノ授授景況如何○領置金利子ヲ付スルヤ如何○夜中刑事被告人ノ入署アルヤ否○囚人餘罪ノ爲メ拘留監ニ在ル時殘監視ト刑期ト共ニ執行日數ニ入ル、ヤ否○轉役指定ノ方法如何○教誨ノ方法○保護會社設立ノ事○刑事被告人毛布使用上ノ事○檢事監獄巡視ノ實況如何○別房留置人監視滿期ノ際重病ニ罹リ歩行難出來者ハ如何取扱フヤ○在監人ヨリ看守押丁ヲ呼フ用語如何○看守押丁ヨリ在監人ヲ呼フ用語如何○官吏ニ對シ在監人ヨリ禮ヲナストキハ其答禮如何○女囚ノ眉毛剃ルヲ許スヤ否

●佛國監獄協會々長の依頼 本會庶務委員佐野尙氏は豫て佛國監獄協會員たりしが今回同協會々長シヤル、プナー氏並に書記長ヘルマン、デホルト氏より本邦監獄の通信を同氏に依頼し越したり其依頼書は左の如し

拜啓毎度申陳候本會外國監獄問題調査部は貴下の恩恵なる賛助を得貴國の監獄に關する法律及管理法に係る諸法令の通信の勞を貴下に於て取られんことを希望致候其通信の目的は毎年貴下より左記の事項御通信被下度事に御座候也

甲(一)監獄に關する法律及管理法

(二)政府に於て採決したる監獄費豫算

(三)監獄論を掲載したる特別の刊行物(書籍雜誌新聞紙)の題目但成るべくは刊行物

(四)貴國に於て特に監獄學を論述掲載する雜誌及新聞紙の題目

乙 本會の研究の爲め提出する議題又は貴下に直達する問題に對する答辨

丙 貴下の職務上常に研究する疑題に付貴下の意見を附し本會へ送附の事

右各項に就き正實なる通信の勞を取られ候節は本會監督議會よりは貴下の恩恵なる勞力を謝するが爲謝禮を表すべし

本會は外國に居住せらるゝ所の會員と直接に通信するの便利を計り本會の某人をして外國監獄調査の事務を委任せしめ候間其人に御請求相成るに於ては各國に於て特に監獄改良の進歩を計られる諸士の明說卓論を御送附相出來候事に御座候又本會へ向け御通報の時は巴里府カンパセレー六番地住本會書記、代言師ラウール、グリボン氏へ宛御直送被下度先は右通信御依頼迄早々敬具

千八百九十一年七月十四日

佛國監獄協會々長、大審院評定官、前監獄高等議會々員

本會記事

洋籍寄贈

武田英一君 梅謙次郎君 金子餘太郎君

(五四)

同協會書記長、巴里上等裁判所附屬代官師前監獄高等議會々員

ヘルツナン、デボルト

シャル、ブチー

大日本監獄協會庶務委員佐野尙殿

●洋籍寄贈 今回正員法學士本野一郎君より佛國代議士ドロンビーユ氏著佛國及其殖民地監獄論一冊正員米國法律學士三好太郎君より米國監獄協會年會議事録四冊を寄贈せられたり因て茲に其厚意を謹謝す

●武田英一君 本會調査委員たる同君には過般陸軍教授に任せられしか本會に對する同君の關係は依然毫も異ならざるのみならず歐米獄事調査に付ては自今層一層本會の爲めに盡力せらるへし

●法學博士梅謙次郎君 同君に自今時々本誌へ寄稿の儀を依頼せしに承諾せられたり

●法學士金子餘太郎君 同君には本會の爲めに監獄に關する有益なる講義を爲さるゝ筈なり

●金玉の寄書 多きも本誌紙數限りあるを以て止むを得ず次號に掲ぐるおとせり伏て寄書家諸君の諒恕を請ふ

●出版遅延 本誌印刷所なる東京並木活版所今同新築地へ移轉の爲め數日休業せしに由り本號出版大ひに遅延したり是亦會員諸君の諒恕を請ふ

獨逸聯邦監獄經營議談

此編ハ曾テ予ガ纂譯出版セシ監獄事情 明治十九年

第五号以ニ掲ケタル舊譯稿ナレモ監獄事情ハ當時

典獄諸君ノ參考迄ニ刷行シタルモノニシテ其印

刷總部數常ニ二百乃至二百五十ノ上ニ出テタル

コトナカリシ故ニ我監獄協會員ニシテ該事情ヲ

閱セラレタル向極メテ稀レナルヘシ然ルニ本局

ハ監獄ノ建築法ヲ講スル爲メニハ實ニ得難キ貴

重文字ナレハ僅々二百餘部印刷セシ監獄事情ニ

掲ケ置クノミニテハ監獄建築問題漸ク盛ンナラ

ントスル今日イト措シキ次第ニ付自今本誌ノ附

録トシ未タ監獄事情ニ於テ本局ヲ關讀セラレキ

ル會員諸君ノ清覽ニ供スルコト、セリ

佐野尙白す

此一篇ハ埃國維納府ニ於テ千八百八十四年ニ開設

セシ司獄官會議ノ決議書ニシテ翌千八百八十五年

七月ヲ以テ汎ク獨逸國內ニ發表シタルモノニ係ル

而シテ其調査委員ハ樞密參事官エツケルト氏(フ

ライブルグ府人)樞密高等參事官イリング氏(伯林

獨逸聯邦監獄經營議談

府人)重罪監獄典獄クロネー氏(伯林府人)内務參事官リツテル、フォン、ビヒス氏(ウインズ府人)典獄ストレング氏(ハムブルグ府人)司法參事官ウヰルト氏(ブリヨシチエレゼー人)埃國檢事長ツアチエツク氏、七氏ニシテ委員長ハ樞密參事官エツケルト氏ナリシト該會ハ有名ナル高等建築師マウルス氏ノ商議委員ニ加入セラレタルガ爲メ特ニ好結果ヲ得タリト云フ

○監獄ヲ設置スル場所

市府內ニハ必ス己決監ヲ建設スヘカラス亦大都會及州

縣ノ都會並ニ工業ノ繁昌スル地ニ接シテ向來市區中ニ

加ヘラルヘキ場所ニ於ケルモ亦同一ナリトス

停車場ノ近傍ニシテ鐵道ニ接シ中等ニ位スル都會ノ近

傍ヲ最上ノ位置ナリトス

建築場ハ開闢ニシテ陰氣ナラス且空氣流通シ停滯シタ

ル水溜及沼池ヲ遠サカリ高燥ノ地ニアリテ其敷地ハ堀

鑿スルヲ得ヘク而シテ其地ノ高サハ多額ノ費用ヲ要ス

ル溝渠若クハ汚水ヲ畑ニ漑ク所ノ計畫ヲ許クルヲナク

容易ニ汚水ヲ流下シ得ルニ足ルヲ要ス又化學上精密ニ

地質ヲ検査シテ善良ナル飲料水其他用水ノ不足ナキヤ

否ヤヲ測定スヘシ而シテ必要ナルハ水量監獄內ニ住居

スル人員ニ付キ一日一人分凡百「リートル」一五合余三當ル
トス故ニ五百人ヲ繋囚スル分房監獄ニ於テハ官吏ヲ包
合シテ一日七十立方「メートル」ノ水ヲ要ス

己決監獄ヲ市中ニ建設スヘカラサル所以ハ第一費用
ノ点ニ關スル者ニシテ概シテ市内ハ地價ノ不廉ナル
ヨリ非常ニ多額ノ建築費ヲ要スルニ至ヘシ第二監獄
及市府ノ健康ノ点ニ關スル者ナリ抑モ人家稠密シ空
氣ノ充分ニ流通セサル狹隘ナル場所ニ五百人ヲ集合
ス可ラス蓋シ市中ノ蒸發氣及汚物ハ監獄ニ害ヲ及ホ
シ又監獄ノ蒸發氣及汚物ハ市中ニ害ヲ及ホスノ患ア
レハ也第三刑ノ執行及管理ノ点ニ關スルモノ也抑モ
寂寥ナル室ニ入レ精神ニ苦痛ヲ與エテ歸善セシムヘ
キ囚徒ヲ世上ノ喧嘩ノ聲分房ニ達シ其思想ヲ攪亂シ
テ惡ニ誘引スル地ニ繋留スヘカラス又熱鬧ノ地ニ於
テハ囚徒ガ二三歩ノ隔テタル世上ノ人ト安リニ交通
セント謀ルヲ制止スルノ煩勞ニ堪ヘサル也右三個ノ
理由ハ大都會及州縣ノ都會並ニ工業繁榮ノ地ニ接シ
テ將來市區内ニ加ヘラルヘキ場所ニ付テモ適當スル
モノナリ蓋シ數十年間ノ經驗ニ據レハ右ノ都會ガ擴
ガル所ノ方位及度ハ殆ント豫定スルヲ得サルモノニ
シテ二三十年前ハ斯ノ如キ都會ノ極メテ邊隅ニ設ケ

致スルカ將テ裁判官自ツカラ監獄ニ來臨スルモ三乃
至四「キローメートル」ノ距離ニ付テハ多ノ時間ト又
甚タ巨額ノ金員ヲ涉費スヘシ

經濟ヲ維持スル爲メ斯ク大ナル監獄ノ需用スル所ハ
一ヶ年ニ付キ二万乃至二万五千「チエントナル」ノ額
ニ達スヘシ此多量ナル需用品ヲ運送スルハ斯ノ如キ
距離ニ於テハ容易ナラス又斯ク僻遠ノ場所ニ於テハ
一人ノ醫師ヲ雇入レ監獄ニ接近シテ居住セシメザル
ヘカラス故ニ醫師ニハ多分ノ俸給ヲ與ヘザルヲ得ザ
ルナリ加之僻遠ノ地ニ監獄ノ設ケアルハ從テ囚徒
ニ作業ヲ課スルノ艱難ニシテ司獄官ニ於テ作業ヲ監
督シ又ハ請負者ヲ以テ之ヲ擔當セシムルモ製造用ノ
原質及製作物ヲ監獄ヨリシ又ハ監獄ヘ運送スル爲メ
作業ノ費用ヲ増加シ而シテ製作品ヨリ生スル収入ハ
是ニ應シテ減少スヘシ亦斯ノ如キ監獄ニ於テ官吏ノ
不便モ顧慮セザルヘカラス何トナレバ家計ヲ營ムニ
付テ大ナル艱難ヲ來シ又許多ノ費用ヲ要シ而シテ大
都會ノ弊害ハ總テ之ヲ被ルモ其利益ハ一モ之ヲ受ク
ルコトナシ兒童ヲ學校ニ通學セシメンカ道程遠クシテ
最寄ノ公立學校ニ徒歩シテ行クヲ得ス故ニ下等官吏
兒童ノ爲メ監獄ノ側ニ學校ヲ建設シ又市内ノ高等學

ラレタル監獄モ今日ニ至リテハ都會ノ中央ニ在ルモ
ノ擲カラス然レモ甚タ遠隔ノ地即チ三乃至四「キ
ロメートル」ノ距離ノ場所ニ於テ監獄ヲ建設シ都會
ノ擴マルモ決シテ監獄ニ連スルノ恐ナカラシメント
スル時ハ是方爲メ建築並ニ管理上頗ル大ナル艱難ヲ
生スヘシ例ヘハ建築場ニ多ノ土木砂石等ヲ運搬スル
其費用容易ナラス且數百人ノ職工ヲ雇入ルルニ艱難
シ又其者ノ爲メ造營中監獄ノ側ニ後日管理上不便ト
ナルヘキ炊所及止宿所ヲ建設セサルヲ得ス而シテ各
種ノ營業者ニ建築上ノ川辨ヲナサシムルモ容易ナラ
ス又建築ニ關係アル者ガ普請場ニ往返スル爲メ無益
ニ時間ヲ消費スル等ヨリシテ巨額ノ冗費ヲ生スベシ
經驗ニ據レハ斯ク僻遠ノ地ニ監獄ヲ設ケル時ハ費用
上ニ割ヨリ二割五歩迄ノ増額ヲ要スル者也加之遠隔
ノ地ニ監獄ノアル時ハ管理上少カテカサル不都合ヲ生
スヘシ

入監スル囚徒ヲ鉄道停車場ヨリ監獄迄護送スル路程
ハ幾百歩又ハ幾「キローメートル」タル可キ乎安全
並ニ護送費用上著シキ關係ヲ有スル件ナリ抑モ已ニ
刑ノ確定シタル後再囚徒ヲ裁判所ニ於テ尋問スルハ
經驗上儘アル例ニシテ其レガ爲メ囚徒ヲ裁判所ニ遠
校ニ通學スヘキ兒童ノ爲メニハ車馬ヲ備置カサルヲ
得ス如何ニ廉直ナリトスルモ政府ニ於テ是等ノ費用
ヲ支辨スルハ不復費用ノ増額ヲ要シ官吏ニ於テ之ヲ
支辨スルハ不平等及嘆願ノ止ム時ナカルベシ而シテ
官吏中有力ナル者ハ此地ヲ去ラントチ欲シ智者ハ去
リ愚者ニアラサレバ止ル者ナシ才能アル官吏ハ豫メ
此ノ如キ監獄ニ於テ職ヲ奉スルヲ回避シ適當ナル人
物ヲ以テ官吏ノ缺ヲ補フハ益難カルベシ抑モ此ニ職
ヲ奉スル所ノ官吏ニシテ不平ヲ懷キ且其任ニ堪ヘス
可成の速ニ轉任セント欲スルニ於テハ假令最上ノ分
房監獄ヲ建設スルモ何ノ功カ之レ有ランヤ
總テ此等ノ弊害ハ鐵道ニ沿タル中等ニ位スル都會ノ
傍ニ分房監獄ヲ建設スルハ之ヲ免ルヲ得ベシ此
ノ如キ土地ニ於テハ「キローメートル」ヲ超過セサル
距離ニ於テ低價ヲ以テ適當ナル地所ヲ購求スルヲ得
且預想スルヲ得ヘキ期限内ニ市街ノ擴ガリテ監獄外
ニ迄延長スルノ憂アルコトナシ又斯ル地ニ於テハ管理
上並ニ官吏ニ付テ前ニ繰述セル困難ヲ見ルコトナク普
請場ノ停車場ニ接近シ鐵道ヲ敷設シテ此間ニ連絡ヲ
通シ得ルノ便アリテ之ガ爲メ建築費用並ニ落成後ノ
管理上ノ費用ニ付テ著シク節減ヲナスヲ得ベシ

建築上ノ位置ハ總テ衛生上ノ要件ニ適セザル可ラザルヲ勿論ニシテ其地ヲ撰ムニ當リテハ監獄存在在中ニ假令健康ヲ害スベキ事ノ生スルコトアルモ多ク費用ヲ要セスシテ容易ニ之ヲ除去スルヲ得ベキヤ否ニ注意セザルベカラズ即下水ノ流通ハ第一ノ要件ニシテ此下水ハ日々多量ニ生シ之ヲ相當ニ疏通セザルハ空氣及土地ニ害ヲ及スベシ建築場ヲ撰定スルニ當リ此下水ヲ輒ク速ニ疏通スルノ法ヲ設ケザルハ普請中又ハ落成ノ後ニ至リ衛生ノ爲ニ害ヲ生シ之ヲ防ガントスレバ甚多額ノ費用ヲ要スル其錯雜シタル溝渠等ヲ設ケザルヲ得サルニ至ルヘシ

○周圍

此ノ如キ方法ニ於テ構築場ヲ確定スル前純良ナル水ノ充分ニアリヤ否ヲ檢査スルヲ要ス而シテ此檢査ハ只ニ地上ニ在ル所ノ水ヲ化學上分析スルニ止マラズ水ヲ絶ヘズ多ク汲取ルニ方リ其質ノ變セサルヤ否ヤヲ知ランカ爲メ地質ヲ吟味セザルベカラズ

周圍ノ塙長サハ監舎ヲ適當シ一所ニ集合シテ可成的之ヲ短縮スヘシ其高サハ四「メートル」半ヲ下ルヘカラス其塙ノ厚サハ首トシテ建築術上ノ考案ヲ以テ定ムヘシ塙内側ハ屋根ヲ除クノ外突出ヲ設ケヘカラス又其角ハトス而シテ官宅庭園及其他ニ必用ナル地坪ヲ定メ尙監獄ノ周圍ニ充分ナル空虛ノ餘地ヲ殘シ人民ノ所有地若クハ公道ヨリ之ヲ離隔スヘシ

分房監獄ヲ建設スル爲メ非常ニ廣大ナル地所ヲ撰定スルハ其用ナキノミナラス爲スヘカラサル事トス囚徒ヲシテ耕作ニ從事セシムルハ雜居法ヲ施行スル監獄ニ於テハ可ナリト雖モ分房監獄ニ於テハ勿論行フヘカラス然レモ周圍ノ塙ヲ圍繞スルニ監獄ニ附屬スル所ノ地所ヲ以テスルハ監獄ノ安寧上之ヲ必要トス即チ斯クスル時ハ疆界ヲ接スル所ノ私有地若クハ公道ヨリ周圍ノ塙ヲ超越シテ囚徒ト交通セントスル謀計ヲ防制スルヲ得ヘシ又官宅ヲ建築シ且之ヲ附屬スル園圃ヲ設置スルヲ要スレハ地所ハ餘リ狹隘ナルヘカラス而シテ塙ヲ以テ圍繞スヘキ地所ハ玆ニ囚徒拘禁管理並ニ炊事及澆灌ニ付テ止ヲ得サル必要ノ家屋ヲ相當ニ配列シテ建設シ又囚徒ノ運動並ニ炊事及澆灌等ヲ行フニ付テ無論必要ナル所ノ庭園ヲ設クルニ足ルヲ以テ制限トス畢竟此制限ハ費用ノ点ヨリ出タルモノナリ何トナレハ圍繞セラレタル地所廣大ナルニ從ヒ益々周圍ノ塙長キチ要シ左ナキダモ多額ノ經費ヲ要スル工事ヲシテ益費用ヲ増加セシムレハナリ

圓形ニナスヘシ

周圍ノ塙ハ高サヲ從前ヨリモ減スルヲ得ヘシ何トナレハ一ヶ所ニ於テモ周圍ノ塙ニ監舎ノ觸ル、トナク又塙ニ攀登スルノ用ニ供スルヲ得ヘキ物件ヲ總テ炊所等ヲ設クル内庭ニ藏置シ相當ニ之ヲ看守スルニ於テハ四「メートル」半ノ高サヲ以テ踰越ヲ防クニ足レバナリ蓋シ塙ノ高サチ六「メートル」ヨリ四「メートル」半ニ減ズルキハ長サ五百「メートル」ノ周圍ノ塙ニ付テハ建築費用ノ節減ヲ見ル尠少ナラサルナリ周圍ノ塙ハ安全上ノ点ヨリ其厚サヲ増スチ要セス只其塙ノ堅固ナルヲ以テ足レリトス何トナレハ夜中塙ヲ翳ナク照射スル燐燈火ヲ掲ケ置クニ於テハ其塙ヲ壞破シ又ハ塙ノ下ニ穴ヲ穿タント試ミル者アルモ諸庭ノ番人ニ於テ直ニ之ヲ發見スベケレバナリ塙ノ屋根ハ風雨ノ爲メ塙ノ面ヲ毀損セラレサランカ爲メ充分ニ突出スベシ其屋根ハ薄キ瓦若クハ平磚ヲ以テ蓋ヒ「セメント」ニテ固ムルヲ最上トス

○建坪

分房監獄ノ建坪ハ適宜其廣狹チ斟酌スベシ五百人ヲ繫囚スル分房監獄ニ付テハ塙ヲ以テ圍繞シタル二百五十ヨリ三百アール（「アール」ハ百平方「メートル」ニ當ル）ノ地ヲ以テ足レリ又塙ヲ以テ圍繞セラレタル地所ノ廣大ナルニ從ヒ監察及看守ヲ行フハ益艱難ニシテ監獄ノ安全ハ愈減少スルモノトス監獄ノ健康上可成的廣大ナル地面ヲ圍ヒ込マサル可ラスト唱フ者アレモ此論ハ未ダ其理ヲ尽シタルモノニ非ス蓋シ此目的ヲ達セント欲セハ宜シク陰鬱ナラスシテ空氣ノ流通善キ地ヲトシテ監獄ヲ建設シ監舎ノ配列其宜キヲ得テ光線及空氣ノ進入ヲ可成的妨害セザル様ニナシ又監獄ノ安全上差支ナキ限リハ周圍ノ塙ノ高サチ制限スヘシ若シ此等ノ要件ヲ滿タスヲ得サルニ於テハ仮令周圍ノ塙ヲ以テ圍繞セラレタル塙所ヲ一二万平方「メートル」丈擴ムルモ健康上ノ利益トナラスシテ却テ無益ニ建築費用ヲ増加スルモノナリ

○監獄ノ大サ

專ラ自由刑審ノ刑ノ執行ニ供スル分房監獄ハ拘囚スル人員五百名ヨリ多カラス二百名ヨリ少カルヘカラス故ニ其構造ハ宜シク之ヲ標準トナスヘシ右ニ示ス所ノ數ハ大ナル監獄ニ附屬シテ合同拘禁法ヲ執行スル分房ノ構造ニ付テハ適用スヘカラス此條ハスツ、トガルト會議ノ決議ト殆ト同一也抑獨居監禁法ヲ以テ刑ヲ執行スルハ各囚徒ヲ其人ニ應

シテ待遇スルモノナレハ法律ニ遵據シテ刑ヲ執行スルノ任アル典獄ハ各囚徒ノ體力性質ヲ熟知シ居ラサル可ラス之ヲ爲フニハ典獄カ擔當スル人員ノ數ニ制限ヲ設クヘシ然ラサレハ典獄ハ其他事務多端ニシテ各囚徒ノ人トナリヲ精シク知ルヲ得サルナリ委員ニ於テハスト、トガルトノ會議ニ於テ定メタル最高点即チ四百名ヲ超過シ極點ヲ五百名ト定ムルヲ以テ妥當トナセリ何トナレハ實驗上大ナル分房監獄ニ於テハ管理若クハ健康ニ關スル點ヨリ賄方、洗濯人、掃除人、耕作者等トシテ分房外ニ於テ囚徒ヲ使役シ或ハ疾病ニ罹リ入院スル者等アリテ囚徒ノ一割乃至二割ハ獨居監禁セラル、コナクレハナリ故ニ委員ノ定メタル最大數即チ五百人ニ付テモ實際分房ニ繋囚セラル、者ハ僅ニ四百人ナルヘシ然レモ最大數ヲ五百人ト定ムル時ハ囚徒ノ頭數ニ相當ル所ノ建築費額ハ之カ爲メ著シク減少スルヲ考ヘサルヘカラス蓋シ分房監獄ニ付テ所謂一般ニ關スル構造即チ實際建築費ノ四割迄ヲ占ムル所ノ寺院、學校、炊所、洗濯所周圍ノ塙、官宅等ハ囚徒ノ數四百人若クハ五百人ニ付テモ同一ナレバナリ

員ノ最少數ヲ確定セシメテ發議セシメアリシガ委員ハ此說ヲ尤ナリトシ該數ヲ定ムルニ決セリ而シテ囚徒ノ數ヲ二百人ヨリ少クスル時ハ多クノ俸給ヲ與ルヲ得サルニ由リ獨居監禁シテ刑ヲ正シク執行シ得ル所ノ典獄其人ヲ得サルヘク又教誨及教授ニ付テモ全カヲ之ニ用ル所ノ適當ナル教誨師及教員ヲ備ルルニ艱難スヘシ夫レ斯ノ如クナル時ハ分房ニ於ケル刑ノ執行ハ器械的ノ禁囚ニ止リ至ク其實價ヲ失フモノナリ加フルニ分房監獄小ナルニ從ヒ獨居監禁ニシテ規則正シク刑ヲ執行スルニ付テノ方法ヲ設クルハ益艱難ニシテ又頭數ニ付テノ建築費及管理費ハ益増加スヘシ

○監舍ノ配列

翼舎並ニ事務所ハ監舍ノ各部ヲ通覽スルヲ得ヘキ中央櫓ノ周圍ニ之レヲ集メ而シテ翼舎ハ直角ニテ互ニ相對立シ光線ノ成ル可ク平均ニ分配セラル、樣構造スヘシ此目的ヲ達スルニハ監舍ノ間ノ角度ヲ折半スル線ヲシテ東西南北ニ向ハシムルニ如クハナシ

總テノ分房ヲ三翼舎ニ於テ構成シ而シテ第四ノ翼舎ハ事務所及寺院ニ充ツルヲ以テ最モ至當ナリトス(彼ノモリヒット監獄是レナリト信ス)病院並ニ炊所附屬所

論旨を取り纏め議事の基礎となるべき草案を編成して討議を開くを任ぜす

第一課(刑罰ニ關する法制) スパツグイチ、スリテスベル、ミラウマウエスニテ、スローチエグエスキ、フチラニスキ、ゴログイス、カルニスキ、チエグログイトラー、凡氏

第二課(監獄ニ關する制度) プリレジヤエ、ゼラルジエスキ、カールフエルト、カールフエルト、ラチシユ、スパツグイチ、ヴェレキス、フチラニツキ、フチラニツキ、フチラニツキ、十氏

第三課(豫防制度) リチンスキ、リチンスキ、カルニツキ、スロスベル、グチラヂン、ラツセー、六氏

外國議員にして右に指示せる報告委員の職務を代辨せんと欲するときは該委員と協議するを要す之を爲すには晚來歐羅巴館に開ク懇親會を以て好機會とす

準備材料

三課二十四問題に對して提出せし準備材料は其數頗る多しと雖も第二課の第一及第二問題に對しベルトラニスカリア氏の提出せる議案は最も有益と認むるに付左に掲載す

第一問題 監獄内に於て官設作法と請負工作法とに決議案

は孰れか適良なるや

囚徒の作業に關する件に付ては左の原則を参照するを

良とす

第一 囚徒をして正道に生業を修め得るの境場に達せしめたるの後之を社會に放還するを要す其故は囚徒豫め獄中に於て職業を習熟しあらずして滿期放免の時復び罪科を犯すときは政府も亦同連累たるに至るべければなり

第二 囚徒の費用國庫に償還せしむる爲め及良民をして罪惡の損害を受くるの後尙ほ犯罪人を拘禁するより起る莫大なる出費を分擔せしめざる爲め囚人の工作を成るべく生産的に爲すを要す

此難問を決するに適良なる監獄法あり左の如し

一 囚人をして嚴肅なる紀律に服せしめ良行及び勤勉なる者の外は一切寛假するよどなし

二 囚人の運命を輕減するの權ある典獄を以て法律の代表者と認定し之を敬載せしむるよど

三 囚人をして専ら肉體上の痛苦のみを見ずして性心上の痛苦を感せしむるよど(即ち工作勞動を爲すのみにして其他を顧みざるが如きことなからしむ)

四 囚人をして在獄中從前生活の爲め習熟しある

職業を棄却せしめずして満期の後本業に歸せしむるの地を爲すまで

五 四人をして其工作上に全力を竭盡せしめ得る爲り且つ苦勞ある然れども安全なる償罪法なりと思考せしむる爲め實地教練(工業或は農業)を加へ固勞なるも可成變換するまでなく施行せしむるものと

第三 工作上の三法は分て全部の請負、一部の請負及官設工作とす第一法は一般に批難を受くるものにして他の二法中一部の請負は最も上文の原則に背反す其故は

- 一 四人の作業を請負人は自己の利益のみに注目して不快なる作業少額なる工錢にも關せず時として身體の健康を害する迄に詎使し四人を責罰すると同時に改悛せしめざるべからざるとを忘れ一向すら執業して成るべく少時間内に成工せしむべき職人と見做すに至らん又請負人の使役する授業手も又同一の意思を懷くべし
- 二 四人を請負人を見て自己の運命を左右し得る者及諸種の方便に依り刑期を輕重せしめ得る者

しむるに至らん

(未完)

監獄内の首途より 東村山郡最上村大字長崎秋葉なを(三)は放火犯の科にて有期徒刑十二年の處刑を受け當山形監獄に在檻し牢太郎男ならばと云ふ株式なるか素太くも臆太くも走逸檻内の櫛杯を窃取し或は達針等を隠し置き身體検査の際は何時も是等と穴の中(但し陰門)へ突込みしとの發覺して此程五日間減食(但し減食とは一日二合つゝの割合にて別房に留置かるゝなり)の罰則に處せられしを面目なしと思ひけん一昨日午後一時二十分頃其房内の蒲團を積み上げ兼て自身にて締め置きたる細帯を櫛柱より垂れて立派にブランコ往生を遂げたりと云ふ囚人ながら可愛そうなものと

(明治廿四年八月二日山形日報)

岡山感化院の擴張

岡山感化院の評議員一同は先日

當市小原町光清寺に會合して同院擴張の事を高り規則廿一條の追加を爲し尙是れ迄院長を置き千輪性海氏其任に當り居し處今度院長の名稱を廢し又幹事長と幹事とに改め松井良哉氏幹事長となり千輪性海氏幹事となり此上一層全院事務を擴張する都合にて生徒は目下八名(此内舊名は近頃入院せし者)各々工技を業とし劍ら

どなし可及的其保護養を博せんと欲し或は前後の志慮もなく盲然其機械となるの恐あり

三 四人にして請負人と親近一致するに至れば法律を尊敬せずして之を破り動もすれば舊規定も自己に對して設けたるものに非ずと信ずるの習慣を爲すに至らん而して若し一致を爲し能はざるときは自ら請負人の特別利益に供する奴隷視するに至らん

四 同時に數多の請負人を監獄内に入るゝことを得ず又請負人の要求に應ぜざるべからざるを以て作業の數は甚だしく限界せらるゝに至らん而して分業法は極端に達し數多の囚人其當初の職業を廢せざるを得ざるに至り放免後如何して其生業を修むべきを知るに至らん

五 某工業は商況の變動を受くるの止むを得ざるを以て四人の努力を成るべく有利に使用するを要し且つ不測の際は諸種的手段に由り其生産を運轉停滯せしめ或は自己の位置を放擲し保證金を棄却するの決心を以て監獄に納むべき金員の免除低減を願出で行政廳として困難の中に陥く

普通學科を修め居り其工技より得たる去月分の純益金は九圓八拾餘錢なり今學科も余程進歩して中には殆んど高等小學二三年生位の實力を有するものありと云へり又本院にては岡山監獄囚人の使用せし余りの塵芥を相當代金にて拂ひ下を願ひ夫を腐熟して人造肥料を製し農家の需用に供する趣きなるが其實高金は一ヶ年二三百圓位なりと

(明治廿四年八月八日岡山山陽新報)

監獄署内の電氣燈 是迄當府監獄署内にて使用する洋燈の數は三百七個にて其費用は一箇年間に一千二百餘圓を要するまゝなるが廿四年度の通常府會に之を電氣燈となさんとの議案を提出せしに否決したれど來年度即ち廿五年度の府會には其費額を洋燈の點燈費に超過せざるを目的とし議案を作りて再提出せんとて目下豫算調査中なりと

(明治廿四年八月十六日大阪朝日新聞)

浦和監獄署の下病病

此程來崎玉縣下浦和監獄署の

在監人中突然一時に二三十名の下病病者を發生し漸次蔓延の兆ありて多き日は七白餘人にも至りたる由なるが昨今は退々消滅に至るべき姿なりと右原因の種々取調べたるも何れより來りしものか實に判然せざれば或ひは食用のため多く買入れたる秋田古米にはあふざる

かど全米の分折を東京試験所へ依頼し來りたりと云ふ

(明治廿四年八月十五日改進新聞)

●監獄瑣談 鍛冶橋を越へて突當り右の小門を入るに舊びたる長椅子に並居る人々年若き婦人の白地の浴衣に縹子の帯端の少しく痛めるをしめて髪のもつれ毛うるさしとや掻き上げつゝ物思はしげなるあり色黒く散髪にてしは枯れ聲によく語る老婆あり目に角あり男のヨロリと見廻すも書生ふしし人のさも待詫しげに時々吐息をつくあり又田舎漢めける老爺の草鞋はきて物問へるもあり正面に壇高く窓の内に白き制服を着け半身あらはしつかめしげに控へたる掛り官あり其爲躰一目して鍛冶橋内警視廳監獄署の差入物受付所と知られぬ忽ちに入り來る一人の男左の手に帽子を取りて其儘肩の上に置き受付口にて軽く一禮つゝ「半月許り前でした未決在監人某へ某々の書三冊差入を願つて置きました但未だ本人の手には渡らぬと申しますぞうでういませしやう」イヤそれは今當局檢事で檢査中ぢや、そうですか」と云ふ顔を睨みやうに見れば男は何か言はんとせしが其儘喋りて口の中に「今日も差入なければならぬ」と呟きつゝ控所の椅子に倚りたり

傍の人々亦皆云へり「何といふ事でしやう閻魔様のやうですね」だから牢の中に居る人は地獄に居ると同様です(記者は事實ありと覺へぬと投書ありたれど爰に掲げ也)

(明治廿四年九月十三日國民新聞)

○囚徒の美術 古來鐵窓の下に呻吟する罪人の文學に藝術に大名を成せし例は万国に擲かゞざれども是は入獄前己に其道に心得ある輩の幾多の閑日月を得るより己むなく思を凝らし心を専にしたる熱血の餘滴に過ぎざるなり爰に特筆すべき美談をそれ石川島監獄署なる薩摩陶器工に本田某といふ囚徒あり其犯罪の何たると聞洩したれど入獄數年に及ぶといへば輕き罪にはあふざるべし某は元來此の職にあらざれども陶器工となりて同業請負山田耕平が書工武内桂舟氏と相識れるより同氏の下圖を乞ひて臨摹せしが日夜丹精を凝せし効ありて兩三年の間に實に驚くべき進歩をなし其花瓶に畫ける神代人物の如きは十分桂舟氏の筆意を顯はし仕入の陶器畫には其比を見難き上作にて青天白日の下に住へども名利に役役たる職工の遠く及ぶ所にあらずなは一般の囚徒も此の本田某を鑑みて怠らずんば各々得たる一畫の功に因つて過去の罪過も減ひなむ吾人

り斯くて幾時をや經けん彼の男は幾度も恨めしげに時計を見詰居るが用ありそうに心せける面もちにてつか／＼と受付口に至り「一寸御伺ひ申しますまだ中々時間がどれまじやうか?」と見上げしに電光一閃受付掛りの眼底に動くかど見ゆるや大喝窓を破て「控て居れ! 番が來れば呼ぶは!」と響けり男色變りて壓し殺せし如き聲にて低く「そう大きな聲をされては私共の様な膽の小さいものは慄へます」何ぢや? 「イヤ、餘り大きいお聲で私共の様な小膽ものは慄へ升ど申すのです」掛官「何?」とぼんのかぼより出し如く小聲にて曰ひしが黙する事若干利那語を續でいと鋭く「控て居れ」ど叫べり男控所に飯りしも不平にてやありけん「差入に來た者をも罪人と思ふか知ら……」と呟けるやうなりと暫ありて外より入り來る一人の婦人あり受付口に何か問ふよと見へしが又もや響く一大雷「控て居れ」控所の談話ぎユツと止みて齊く眼を受付口に注ぐに婦人は「はい私は始めてで何にも存じませんから何伺ひ申しました」掛り官は「知らなければ黙つて居れ!」と叱りぬ控所にありし前の男「知なければおを問ひたるに黙つて居れどは無慈悲なり」と獨言づに

はかざる良結果の擧がらんよと當局の吏に望みて已まざるものなり (明治廿四年八月十四日讀賣新聞)

●地方監獄署内務省にては地方監獄費を國庫に移すの議既に決したる趣は嘗て報道せしが今去る二十年度より本年度に至る五ヶ年間の地方監獄費なりといふを聞くに左の如し

年度	監獄費	建築修繕費
二十年	二六三八八六四八五三	二七〇六九七九〇九
廿一年	二二三九四二七二五五	二〇七九四三三、五二五
廿二年	二五〇一九四五八〇五	二二五五六八、六一四
廿三年	二五七九五五六四二九	三二二五五三、五三三
廿四年	二九六六七〇三、九三七	三〇七三八二、六五九
總計	一三〇一六四九八、二七九	一三三三、四四六、三三〇
平均	二六〇三三九九、六五五八	二六四六二九、二四六

(明治廿四年八月八日島根山陰新聞)

●監獄費を國庫支辨に復すの議

去る明治十三年政府が國庫の支辨たる監獄費を地方稅に移したるは紙幣を償還し且つ地方經濟を整理せんが爲りなるに地方經濟整理のとは兎も角も紙幣償還の一事は略ぼ其目的を達したるものゝ如し然るを政府が依然監獄費を地方稅の支辨となすは甚だ以て不條理なれ

は斷然其舊に復し監獄の經費を國庫の支辨たらしむへし又監獄の制度は歐米諸國に於ても學者間に種々改良論ありて着々歩を進めつゝあるに吾邦の如き府縣知事をして直接に監督せしむるとどなしたらんには四十有餘の腦髓を以て數多の監獄を監理するところなるべきに依り内務省より訓令を發し成るだけ治獄の事務を一定に歸せしめんとするも決して能はざるのみならず之を改築して囚徒を改悛せしむると作業を盛んなくしめて其の収入を増加することの如きい迎ひ行ひ得べきものにあらずれば此際監獄費を國庫の支辨となし(其の經費凡そ三百萬圓)内務大臣をして内國の監獄を直轄せしめ歐米文明國の監獄に一步を譲らざる程のものとなし一方には囚徒改悛の實を擧げ一方には其の經費を地方税中より減じて良民の負擔を輕からしむべしと云ふに在り云ふ

(明治廿四年八月廿六日國會新制)

●犯罪人の處分法 犯罪人を罰して禁錮又は懲役に處するものは社會の安寧を保つと同時に其惡を懲りて處後の犯罪なからしめんと欲するに外ならず然るに實際の情況を觀るに一旦泥水に溺たる惡人は次第に深淵に流込み遂に援可ふざるもの往々にして之あり是其人物

の資性、善に歸るの勇に乏しきにも由るべしと雖も又一ツには外部の事情止むを得ずして本人の良心には惡しき事と知りながらも憐むるは能はずして輕きは刑餘の人と爲り重きは法の爲め露の命を失ふに至る事ならん左れば世間には其初め左程惡しき人にあらずるも生活の困難なるが爲め偶然にも惡意を起し詐僞又は竊盜を行ひしより乍ち法の罰する所と爲り入獄監視等の刑に處せられ大に前非を後悔するかと思ひの外更に倍舊の惡意を萌して益々道なき方向に度胸を据へ終に大罪惡人を以て其身を終る者あり又子供杯が目に視たるものゝ欲しき餘りに前後の辨へもなく竊取る等の犯罪に依り其筋の逮捕する所と爲り入獄中いろ／＼の善からぬ事を覺ゆる放免後實地の演習を試み一度二度と其度を重さねたる未遂に惡漢の本物となり果てる者少しとせず天性不良の徒なれば致方もなければ然らずるものは何んどか甚しきに至らしめざるの方法ありぬべし勿論法律は事を未然に防ぐものならねば斯る注文は素より困難なるに似たれども其仕方依りては随分功を奏せる事もあるべし凡そ如何なる罪人にては初めよりして大惡至罪を犯す者は稀にして多くは小竊盜小詐

本會名譽會員

侯爵 蜂須賀茂韶君
伯爵 伊藤博文君
子爵 榎本武揚君
子爵 山尾庸三君
芳川 顯正君

本會特別會員

石井 邦猷君
清浦 奎吾君
小原 重哉君
小野田 元熙君
川合 麟三君

特別會員禮遇

獄務顧問 フォン、セーバツハ君

大日本監獄協會細則

第一條 雜誌ハ實費ヲ以テ會員ニ啗ツ

買費ハ雜誌ニ關スル一切ノ豫算費額ヲ以テ算出スルモノトス
雜誌ニ掲載シタルモノハ總ヘテ報酬ヲ爲スラ正則トス

第二條

總裁 一人

推員 中ヨリ推薦ス

會長 一人

名譽會員 中ヨリ推舉ス

副會長 一人

名譽會員特別會員又ハ維持會員中ヨリ推舉ス

庶務局長 一人

維持會員 中ヨリ推舉ス

調查局長 一人

維持會員 中ヨリ推舉ス

主幹 二人

維持會員 中ヨリ推舉ス

庶務委員 二人

調查委員 二人

兩局長共同ノ發議ニヨリ會長ノヲ囑托スルモノトス

議員

典獄及ヒ副典獄又ハ典獄代理

公擔員 十人

在東京維持會員 中ヨリ推舉ス

特別調查委員

兩局長共同ノ發議ニヨリ會長ノヲ囑托ス

第三條 總裁ハ本會ヲ提理スルモノトス

會長ハ會務ヲ提理スルモノトス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理ス

庶務局長ハ左ノ事ヲ掌ル

會計ニ關スル事

一 庶務ニ關スル事

二 雜誌ニ關スル事

三 雜誌ノ編輯及ヒ印刷

四 諸起案

五 海外通信

六 統計ニ關スル事

七 特別調查委員ニ關スル事

八 衛生ニ關スル事

九 集會ニ關スル事

庶務委員及ヒ調查委員

庶務又ハ調查ノ事務ヲ分掌スルモノトス

一 庶務及ヒ會計主任

一 編輯主任

一 海外通信主任

議員

會長ノ發議ニ應スルモノトス

特別調查委員

會長ノ囑托ニ依リ一事件ヲ調査スルモノトス

第四條 入會ヲ申込マルル節ハ必ずスル

便切手金貳錢ヲ封入スヘシ本會ヨリハ

規則ニ則リ并ニ入會申込証ヲ送付スル

モノトス

第五條 會費又ハ雜誌買費ハ前納スルモノトス

但シ數月分一時二前納スルモ妨ケテ

シ

明治廿三年七月十二日改正